

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	木曾川の雄大な昔の原点とこれから将来に残していかなくてはいけない自然について本当の意見が交わされているのか。	頂いたご意見を踏まえ、より多くの人からご意見を出して頂けるよう工夫し、よりよい「ふれあいセミナー」を開催して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	愛知県側は非常に規制を厳しくして地下水の利用をしてきたが、岐阜県は全くしていない。そういうことがあって地下の変動があり、地盤沈下するのは当たり前である。そういう実情の正しい見方をされていくとよいと思う。	頂いたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	揖斐川では、今年の春、小さい魚の約40%には全部カビが生えていて、カビをつけて上流へ上がっていつか死滅する。こういう状態が今年も続いている。こういう実情を知った上で、どうしたらいいかということをやりたい。	河川水辺の国勢調査等により現状の河川環境の把握に努め、これらを参考に適切に管理を行って参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	今年の揖斐川の水温は非常に低い。今度取水して長良川や木曾川に持っていきこうとする水は地下を通ってくるから非常に冷たい。また、木曾の山と徳山の上流の山の岩盤は全く違うから水のpHも違う。本当のことだけを知った上で、いい意見を出していただきたい。	木曾川水系連絡導水路事業に伴う環境への影響については、水質への影響も含め、木曾川水系連絡導水路環境検討会において、学識者の指導助言を得ながら検討しているところです。 なお、今年4月から5月にかけて徳山ダムからの試験放流で一時的に水温が下がりました。建設の最後に行わなければならない試験でしたがご迷惑をお掛けしました。 また、木曾三川の水質は以前から測定していますが、pHについては三川とも環境基準に収まっており大きな差はありません。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	導水路計画の縦断図面を見ると何十mの凹凸があり、勾配が1/1,000でパイプの中が4mの直径の管だったら絶対に下にすぐ1/3ぐらいは砂が詰まるが、ランニングコストはどうするのか。もっと真剣に将来のツケに関してどうしたらいいかを考えてほしい。	取水口を河床より高い位置にして砂が入りにくくすることや、洪水時には取水を止めるなど、設計や運用でなるべく維持管理がかからないようにすることを検討して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	私は、環境保護に長年携わってきた。国の税金の使い方の方向付けをしっかりとしてほしい。	河川の整備にあたっては、緊急性に配慮しながら、費用と河川整備により得られる効果・影響を考慮して計画的に河川整備を進めて参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	水が引いた後、ゴミの山になっているところには大きな木がいっぱい生えていて、これを全部一掃してほしい。少なくとも昭和55年程度の河川に直してほしい。	洪水流下の支障となる樹木、河川管理施設に影響を与える樹木及び河川巡視等に支障となる樹木については、環境に配慮し伐開等を実施して参ります。 事業実施にあたっては、緊急性に配慮しながら、費用と河川整備により得られる効果・影響を考慮して計画的に河川整備を進めて参ります。 なお必要に応じ、学識者の知見を踏まえるとともに、地域の皆さまや関係機関と情報の共有を図りつつ実施して参ります。

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	護岸工事の中でつくられた遊水地あるいはビオトープ的なものが、今現在、ブルーギル等が繁殖している繁殖池になっている。馬飼頭首工の水がたまったところや河口堰の前の水がよどんだところにいる。昔のとおりにしたら、ブルーギルも棲めない。	木曾三川においても、多くの特定外来種が確認されており、重要な課題です。今後、NPOの方々等から意見を頂いたり、情報交換をして、外来種対策を進めていきたいと考えております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	徳山ダムができるときの利水計画とそれ以後に変更された利水計画ではどのように変わっているのか。長良川・木曾川への導水路を計画された時点の前と後では、利水計画がどのように変わっているのか。名古屋市・愛知県の利水計画の変更等について時系列で話をしてもらいたい。資料をいただきたい。	木曾川水系は、水資源開発促進法により重要な水系として指定されており、木曾川水系に係る地域の水需給計画は社会的、自然的変化を踏まえ変更が行われております。その中で、徳山ダムの利水計画は、当初計画（S51）の15m ³ /sをH10に12m ³ /sへ、さらにH16に6.6m ³ /sへと変更されております。導水路の実施計画調査を開始したH18以降、徳山ダムの利水計画に変更はありません。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	木曾川水系連絡導水路環境検討会が第4回より公開で実施されているが、その前の分の要旨ではなく議事録を公開して欲しい。	第3回までは当時の導水路計画の熟度等の理由により基本的に非公開で実施しており、公開を前提にしていないことから、ポイントだけを絞った議事要旨をホームページに掲載しております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	「木曾川水系河川整備計画-アウトライン-」の17ページの遊水地等の整備というところで、美濃市、関市、岐阜市にかかわる広範囲に遊水地の整備を行うという書き方だけですから、もう少し具体的に説明してほしい。	遊水地等の整備につきましては、板取川合流点から下流の区間において遊水機能を活かした洪水調節として遊水地等の整備を行います。遊水地等の位置・諸元等の詳細につきましては、今後検討し決定して参ります。 なお必要に応じ、学識者の知見を踏まえるとともに、地域の皆さまや関係機関と情報の共有を図りつつ実施して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	「木曾川水系河川整備計画-アウトライン-」の22ページの危機管理対策の中に防災ステーション等の整備とあり、木曾川は羽島市、揖斐川は大垣市ですが、長良川にはない。もう少し岐阜市と国交省の間で長良川に対する防災拠点を考えて欲しい。また、木曾川上流河川事務所が防災拠点となっているが、具体的に説明してほしい。	長良川につきましては、岐阜市忠節町(50.0k付近)で、情報の収集伝達、災害復旧活動の拠点のための河川防災ステーションを位置付けております。 なお、実施時期及び実施方法につきましては、今後関係機関と調整し検討して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	外来種の対策について方向性は理解したが、長良川の堤防が黄色になっているので、すぐに草刈りをしてほしい。	堤防の除草につきましては6月初めより順次行っております。堤防延長が長いことから、地域によって実施時期に差が出ることをご理解願います。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	ふれあいセミナーについて、もう少し時間をとって皆さんの意見を吸い上げることができるように設定してほしい。	頂いたご意見を踏まえ、より多くの人からご意見を出して頂けるよう工夫し、よりよい「ふれあいセミナー」を開催して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	私は導水路事業に賛成だが、国交省がやろうとしている考え方とは異なる。国の考えの中で環境というテーマが出ていて、生物が育成でき、繁殖し、そこで生息できる環境をつくるというのが基本だと思う。今度の導水路事業でここを考えるとほしい。	木曾川水系河川整備基本方針においても、豊かで多様性に富み、潤いと安らぎのある木曾三川らしい生物の生息、生育、繁殖できる河川環境を目指して参ります。

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	長良川の右岸側は山から水が入り、左岸側は5m ³ /sの水を長良川から給水して各務用水が入っていて、境川・荒田川・新荒田川がとてもし水環境になっているが、10月になると1滴の水もなくなり、そこにいる生物がすべて死滅する。人間だけでなく、地球上にいる生き物すべてにお金を少し使ってみんなが活用できるような導水事業というか河川事業にしてほしい。こういういい機会に、導水事業としてもう少し広い範囲で水を活用する、水を生かすということを考えてほしい。	木曾川水系連絡導水路事業は、計画上、長良川と木曾川の河川環境の改善を目的としていますが、異常渇水時において支川等の河川環境が著しく悪化した場合等、状況に応じてそれら河川へも補給し、河川環境の改善に努めることも考えていきたいと思っております。なお、境川には長良川の日野地点から非かんがい期に4m ³ /sの浄化用水を導入し支川の環境改善を図っております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	遊水地をつくるという計画があるが、農業用水はもってこいの遊水地である。農業用水をいかに活用するか。農業用水が1つの遊水地になるのではないか。	頂いたご意見の具体的な内容等が特定できませんが、遊水地等の整備につきましては、板取川合流点から下流の区間において遊水機能を活かした洪水調節として遊水地等の整備を行います。遊水地等の位置・諸元等の詳細につきましては、今後検討し決定して参ります。なお必要に応じ、学識者の知見を踏まえるとともに、地域の皆さまや関係機関と情報の共有を図りつつ実施して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	地球温暖化の関係で総量規制がかかって企業は良質な水を望んでいて、地下水の活用が増えるのではないか。工場は水を何度も使うようになり、今まで以上に水を必要としなくなるのではないか。	現状の木曾川の水質は良好であるため水質上の問題はありません。地下水については、濃尾平野地盤沈下の揚水規制があるため制限がかかります。また、工水の回収率の向上も進められています。このような状況を配慮して、木曾川水系水資源開発基本計画（フルプラン）において、将来の水需要が予測されており、河川水への依存は引き続き必要となっております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	昆虫等の生態系が大きく変わってくるということは決していいことではなく、河畔林は少し残してたくさん切るとするのが大事だと思う。事業をやれば生物はいなくなるが、10年から20年後にはまた帰ってくる。そのとき、生物が生息できる環境を考えながら事業をしてほしい。	洪水流下の支障となる樹木、河川管理施設に影響を与える樹木及び河川巡視等に支障となる樹木については、環境に配慮し伐開等を実施して参ります。事業実施にあたっては、調査・計画・施工・維持管理を一連のシステムとして捉え、モニタリング、評価を行い、必要に応じて計画、施工、維持管理にフィードバックいたします。なお必要に応じ、学識者の知見を踏まえるとともに、地域の皆さまや関係機関と情報の共有を図りつつ実施して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	遊水地事業について、構想を持って初めて公表されるのが本来の形ではないか。	遊水地等の整備につきましては、板取川合流点から下流の区間において遊水機能を活かした洪水調節として遊水地等の整備を行います。遊水地等の位置・諸元等の詳細につきましては、今後検討し決定して参ります。なお必要に応じ、学識者の知見を踏まえるとともに、地域の皆さまや関係機関と情報の共有を図りつつ実施して参ります。

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	木曾川の堤防を走っていて、意外と世話をせず にきれいな花が咲くものだと思う。一概に外来 種はみんながみんな悪いということはいえない と思う。殺風景なところに黄色のきれいな花が 咲けばすばらしいし、枯れてから刈るとかで余 計なお金を使わなくても済むと思う。外来種も そこに住んで時間がたてば日本の木や花になる ということもあると思うし、別な考え方もでき てそういうことも反映させて整備をお願いした い。	オオキンケイギクは、特定外来生物であり駆除を含めた適切な対応が必要で す。NPOの方々等からご意見を頂いたり、情報交換をして、外来種対策を進 めていきたいと考えております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	整備計画にしてもいろいろな説明会をするとい う意図の中でも、住民の意見があまり入ってい ない。もっと根本的に住民の意見をもっとたく さん入れるシステムをとらないといけない。 淀川の流域委員会のように、流域委員会のメン バーの中に住民を公募で入れて、住民の意見 を入れるようなシステムが必要だったのではない か。 今後は、もう少し住民の意見を入れるというこ とをやってもらいたい。	住民の皆さまからご意見をお聴きする方法は様々ありますが、木曾川水系では 住民の皆さまからアンケート、ホームページ等でご意見等をお聞きするととも に、皆さまから直接ご意見を頂くことを考え、ふれあい懇談会を実施しまし た。今年度からは、地域の皆さまと情報共有を図ることを目的にふれあいセミ ナーも行っているところであり、今後も情報共有を図りながら進めていきたい と考えております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	新丸山ダムの嵩上げによる成戸地点で40m ³ /s の水の確保と、導水路による成戸地点で40m ³ /sの水の確保の関連性を教えてほしい。	新丸山ダムは、1/10規模の渇水時において、既設の阿木川ダム及び味噌川ダム と合わせて、木曾成戸地点で40m ³ /sを確保するものです。また木曾川水系連絡 導水路では、これより厳しい異常渇水時にも、新丸山ダム、阿木川ダム及び味 噌川ダムと合わせて、木曾成戸地点で40m ³ /sを確保できるようにするもので す。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	伐開する木は国交省が植樹したものなのか。植 樹したものでないのなら、全部伐採しないで流 水の機能を維持する程度に伐採して保全した方 がよいのではないか。環境保全のために環境を どこまで戻すのか、どこまでやるのかという話 になるとなかなか難しい。	洪水流下の支障となる樹木、河川管理施設に影響を与える樹木及び河川巡視等 に支障となる樹木については、環境に配慮し伐開等を実施して参ります。 事業実施にあたっては、調査・計画・施工・維持管理を一連のシステムとして 捉え、モニタリング、評価を行い、必要に応じて計画、施工、維持管理に フィードバックいたします。 なお必要に応じ、学識者の知見を踏まえるとともに、地域の皆さまや関係機関 と情報の共有を図りつつ実施して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言 岐阜会場	特定外来種については、その種が入るとそれだ けになってしまうから駆除するという前提があ り、特定外来種はもっと積極的に駆除してい くべきではないか。	木曾三川においても、多くの特定外来種が確認されており、重要な課題です。 今後、NPOの方々等から意見を頂いたり、情報交換をして、外来種対策を進 めていきたいと考えております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙 岐阜会場	杭瀬川最上部旧塩田橋附近の狭窄部改修と親水 公園等検討してほしいと思います。徳山ダム設 置に伴い安全度が増してまいりました。又、今 後とも継続して整備をお願い致します。今後と もご指導を頂きより良い環境景観を夢見ており ますのでよろしく。	杭瀬川の整備におきましては、水位低下対策や堤防強化の整備を順次進めて参 ります。加えて、必要に応じ学識者の知見を踏まえるとともに、地域住民や関 係機関と情報の共有を図りつつ実施して参ります。

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	岐阜会場 知識の多い方の意見を伺うことが出来て大変勉強になりました。今後とも、積極的に参加してゆきたいと思えます。	頂いたご意見を踏まえ、今後もよりよい「ふれあいセミナー」を開催できるよう工夫して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	岐阜会場 出席者は年輩者の方が多いようですが、20代、30代の方に対しての事業の説明はどうされるのか。	個々の事業を進めるにあたっては、関係する方々にお知らせして説明を行い進めて参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	岐阜会場 自然との共生できる工事をすすめて欲しい。そのためには長いスパンの事業計画が大切である。特に、川で遊び、川を愛する住民の育成を期待したい。	河川の整備におきましては、良好な自然環境の保全を図りつつ、失われるなどした環境の再生に努めて参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	岐阜会場 個人的主張が多く、客観的な話し合いになっていないので、聞く内容が少ない。	頂いたご意見を踏まえ、より多くの人からご意見を出して頂けるよう工夫し、よりよい「ふれあいセミナー」を開催して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	岐阜会場 人の生命最優先の河川法から順次、利水・環境保全へと川づくりの任務は大きく変わってきているが平成9年の改正の環境保全についてはまだまだ軽視されている様に思う。3つとも同じレベルでの対応をお願いしたい。	治水・利水・環境のそれぞれの目標が調和しながら達成されるよう、本支川及び上下流バランスを考慮するとともに、流域の保水・遊水機能の適切な保全を奨励したり、風土や景観、親水、動植物の生息・生育環境に配慮するなど総合的な視点で河川事業を進めていきたいと考えております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	岐阜会場 環境保全は豊かな川づくりの基本中の基本だと思います。それには住民をまき込んだ川への意識改革をするような活動・拠点が必要。子供達・住民が川に目を向けれる水辺環境づくりを強化してほしい。	水辺環境づくりにおきましては、木曾三川を特徴づける歴史的、自然的、文化的な河川景観や親水空間としての良好な水辺景観の保全・整備を図るとともに、沿川に存在するまち並みと調和した水辺空間を保全、活用するため、関係機関等と連携した、水辺のふれあい拠点の整備を推進し、河川景観の保全に努めるとともに、地域住民やNPO等との連携を推進して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	岐阜会場 時間がたりない。	頂いたご意見を踏まえ、より多くの人からご意見を出して頂けるよう工夫し、よりよい「ふれあいセミナー」を開催して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	岐阜会場 将来の子供達のために、連絡導水路による長良川への導水は必要と思う。地球温暖化で気温・水温の上昇、渇水の深刻化が考えられる。この対策として、連絡導水路による長良川への導水が不可欠かつ、有効と思えます。	頂いたご意見を参考に、河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に努めて参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	岐阜会場 発言者の時間制限が必要と思えます。より多くの方の意見を聞くべきと思えます。	頂いたご意見を踏まえ、より多くの人からご意見を出して頂けるよう工夫し、よりよい「ふれあいセミナー」を開催して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	岐阜会場 導水路の建設については、賛成であります。天候の変動による渇水の予測は出来難い。太陽系の影響ともCO2の影響とも言われている温暖化は早急に解決出来るとは思わない。	頂いたご意見を参考に、河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に努めて参ります。

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	岐阜会場 平成20年度の伐開計画 治水対策上（200年に1回の洪水）必要と判 断される場所の伐開は実施すべきである。	河道整備流量を計画高水位以下で安全に流下させるために必要な河道断面積が 確保されていない場合には、水位低下対策として河道掘削や洪水流下の支障と なる河道内樹木の伐開を実施して参ります。 水位低下対策の実施にあたっては、動植物の生息・生育環境に配慮し、必要に 応じて代替措置等により環境への影響の低減に努めて参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	岐阜会場 意見交換のやり方：一人の発言時間は制限すべ きでしょう。多くの人の意見を聞くため。	頂いたご意見を踏まえ、より多くの人からご意見を出して頂けるよう工夫し、 よりよい「ふれあいセミナー」を開催して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	岐阜会場 時間が足りません。開始時刻を早めること。	頂いたご意見を踏まえ、より多くの人からご意見を出して頂けるよう工夫し、 よりよい「ふれあいセミナー」を開催して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	岐阜会場 木曾川連絡導水路のルートで東海環状自動車道 のルートがクロスしますが、その高さや近隣な ど問題はないでしょうか。（掘削の影響など） →東海環状のルート変更による影響はないで しょうか。	木曾川水系連絡導水路事業を進めるにあたっては、他事業とも十分な調整を図 りつつ実施しております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	岐阜会場 時間が少なすぎる。	頂いたご意見を踏まえ、より多くの人からご意見を出して頂けるよう工夫し、 よりよい「ふれあいセミナー」を開催して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	岐阜会場 伐開については現況、環境機能の把握が必要。 現況の障害の程度の定量化も必要。流水障害と 痕跡との対応等。エノキ等は保全していく必要 もあると思われる。	洪水流下の支障となる樹木、河川管理施設に影響を与える樹木及び河川巡視等 に支障となる樹木については、環境に配慮し伐開等を実施して参ります。 事業実施にあたっては、調査・計画・施工・維持管理を一連のシステムとして 捉え、モニタリング、評価を行い、必要に応じて計画、施工、維持管理に フィードバックいたします。 なお必要に応じ、学識者の知見を踏まえるとともに、地域の皆さまや関係機関 と情報の共有を図りつつ実施して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	岐阜会場 1人の方の持ち時間を決めてほしい。1廻りし てからもう1度。	頂いたご意見を踏まえ、より多くの人からご意見を出して頂けるよう工夫し、 よりよい「ふれあいセミナー」を開催して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	岐阜会場 水の流出についての問題ですが、 ・山地の樹木の管理に大変問題が有ると思われ ます。 ・第1次産業（林業等）の作業員が減少し、第 2次・第3次産業が反転しすぎで ・第1次産業を少なくなると日本の国がダメに なると思われる。 ・林業にも若い者が魅力ある様をお願いした い。 ・基本的に見直すべきだ。 ・岐阜市のモットーである“スローライフ”を重 視すべきだ。	頂いたご意見については、河川管理者だけでは対応できる範囲等が限られてお りますが、河川の整備を実施するにあたり、河川のみではなく、様々な分野を 総合的に捉えて関係機関との連携・調整をしなければいけないと考えておりま す。

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	岐阜会場	徳山ダムからの導水路計画について必要なのは、愛知県であり、長良川には自然環境から考えても不必要であり計画を廃止していただきたい。	木曾川水系連絡導水路事業は、愛知県及び名古屋市の水道用水及び工業用水を供給するとともに、徳山ダムに確保された流水の正常な機能の維持（異常渇水時の緊急水の補給）を図るための容量のうち40,000,000立方メートルの水を一部は長良川を經由して木曾川に導水することにより、異常渇水時においても、木曾成戸地点において河川環境の保全のために必要な流量の一部を確保するものです。異常渇水時に木曾川水系連絡導水路により長良川に導水することができれば、長良川の河川環境が改善することが期待できます。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	岐阜会場	自由な意見の場は大切であり、もう少し時間を取っていただきたいと思います。	頂いたご意見を踏まえ、より多くの人からご意見を出して頂けるよう工夫し、よりよい「ふれあいセミナー」を開催して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	岐阜会場	事前のお知らせ、公報をもっと多くしていただきたい。	頂いたご意見を踏まえ、広報の手法等を工夫して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	岐阜会場	樹木の伐開は賛成だが、そこに植樹をしたのは国なのですか。自然に育ったとは思えません。明確な過去のデータほしいです。	具体的な場所等が特定できませんので、具体の場所を教えていただければ調査いたします。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	岐阜会場	導水路についてはやっぱり反対。今すぐストップすべき。住民投票にしてほしい。	木曾川水系では近年渇水が頻発しています。木曾川水系連絡導水路は木曾川水系の異常渇水時において河川環境を改善する他、木曾川にかかる岐阜県、愛知県、三重県にかかる広域の水利用の渇水被害を軽減するものであり、必要な事業と考えております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	岐阜会場	やはり時間が短いかな。	頂いたご意見を踏まえ、より多くの人からご意見を出して頂けるよう工夫し、よりよい「ふれあいセミナー」を開催して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	岐阜会場	事前に意見ある人は文章ださせて、すべて回答をのせたものを当日までにある程度配布すべきでは！	頂いたご意見を踏まえ、今後もよりよい「ふれあいセミナー」を開催できるよう工夫して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	岐阜会場	「正常流量を保つ」目的で他の水系の川を混ぜることがよいのかギモンです。少雨傾向の中でも、山の保全能力を高める努力がどこまでされたのかが分からない。ある学者は「河川は山から海までの一連の流れがあってこそ、河川としての機能がある」と言っています。	河川の正常流量を確保することは、河川環境の保全にとって重要なことと考えております。導水路事業に伴う環境への影響については、木曾川水系連絡導水路環境検討会において、学識者の指導助言を得ながら検討して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	岐阜会場	時間は最低2時間は必要だと思う。	頂いたご意見を踏まえ、より多くの人からご意見を出して頂けるよう工夫し、よりよい「ふれあいセミナー」を開催して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	岐阜会場	こういう懇談会を各地域コミセンなどでも開いてほしい。	頂いたご意見を踏まえ、今後もよりよい「ふれあいセミナー」を開催できるよう工夫して参ります。

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	岐阜会場 導水路計画に関して、渇水対策についても、コスト面を考えて導水路によらない代替手段がないのかどうか検討すべきである。膨大な事業費を要するものだけに、真に緊急性のある事業なのかどうか三県一市で改めて議論をしなければならない。	木曾川水系連絡導水路による異常渇水時の緊急水補給と、同等の効果を得られる代替施設（渇水対策ダム）をつくる場合の費用と比較検討をしております。また、渇水に強い木曾川水系にすることは、平成7年から9年にかけて行われた「徳山ダム建設事業審議委員会」での意見として出されるとともに、導水路計画については、平成16年度から国土交通省及び三県一市により具体化に向けた検討を行ってきたところです。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	岐阜会場 導水路計画、長良川遊水地など大きなテーマを多数抱えている現状からすれば、国交省は総括的な「ふれあいセミナー」ではなく、個別のテーマに関する意見交換会、説明会を開催すべきである。	頂いたご意見を踏まえ、今後もよりよい「ふれあいセミナー」を開催できるよう工夫して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	岐阜会場 樹木伐開に参加したいと思います。	地域の皆さまが安全に参加いただけるよう関係機関と調整し検討したいと考えております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言	一宮会場 南派川が6月から9月の時期に水が全く流れていない。原因として本川との河床の差が通常でも1.5m位あり、流量が北の方に流れて南の方へほとんど流れない。真ん中部分ぐらいだけでも河床を下げて流量を確保してほしい。	南派川におきましては、通常時は水涸れとなっており、調査・検討の上流水環境の確保に努めて参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言	一宮会場 どうして木曾川の水はこんなに少ないのか。原因として、木曾川の水は愛知県側の農業用水、工業用水、都市用水に取られてしまう。岐阜県側についてはわずかに羽島用水があるだけで、これらの取水が原因と考えるのがいがか。	木曾川水系は、従来から渇水の頻発する水系であり、さらに、近年は少雨化傾向であり年間降水量の変動幅も拡大しており、全国的にみても渇水が生じる頻度が高い水系です。なお、岐阜県側の水利用は羽島用水だけでなく、東濃用水、可茂用水等、他の水利用もあります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言	一宮会場 河畔林について、伐採してほしいという意見もあれば、残してほしいという意見もある。樹木伐採に関して木曾三川の大きな方針を決めて、個別箇所の計画を立てて実施してほしい。30年計画の中で第1位優先順位をつけて、伐採について今後どのような予定なのか教えてほしい。次回COP10で生物多様性の観点でも木曾川が良い事例となるようにしてもらいたい。	洪水流下の支障となる樹木、河川管理施設に影響を与える樹木及び河川巡視等に支障となる樹木については、環境に配慮し伐開等を実施して参ります。事業実施にあたっては、緊急性に配慮しながら、費用と河川整備により得られる効果・影響を考慮して計画的に河川整備を進めて参ります。なお必要に応じ、学識者の知見を踏まえるとともに、地域の皆さまや関係機関と情報の共有を図りつつ実施して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言	一宮会場 川は流域全体を含めて川であり、大臣管理区間など一部だけの話をすると川として大切なことが抜けてしまう。川全体の管理者は誰なのか。	河川の管理は、流域全体で考えていく必要があると考えております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言	一宮会場 平成9年の河川法改正によって環境の観点が加わったので、動植物の目線をもう少し色濃く出してほしい。	治水・利水・環境のそれぞれの目標が調和しながら達成されるよう、本支川及び上下流バランスを考慮するとともに、流域の保水・遊水機能の適切な保全を奨励したり、風土や景観、親水、動植物の生息・生育環境に配慮するなど総合的な視点で河川事業を進めていきたいと考えております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言	一宮会場 外来生物について、こんな生物がいるということだけでなく、もっと積極的に手を打ってほしい。	NPOの方々等からご意見を頂いたり、情報交換をして、外来種対策を進めていきたいと考えております。

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言	一宮会場 ユスリカについていろいろ検討して対策を打っているようだが、なかなか効果が期待できないようだ。外来種についていろいろ検討される中で、ユスリカも項目に取り上げて息の長い対策をしてほしい。	ユスリカ対策については、引き続き関係機関と連携を図っていきたいと考えております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言	一宮会場 今渡から土田にかけて堤防を散歩しているがトイレがない。長良川のようにトイレを設置してもいいのか。	河川敷に設置されているトイレの大半は公園等を管理する自治体が設置したものです。ご指摘の区間については河川水の影響を受けない高い位置での設置が可能と思われますので、関係自治体にご相談下さい。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言	一宮会場 太田橋の下流には歴史に名高い石置の歩道があるが途中で切れていて、遊歩道を有効に利用するなら太田橋の下をくぐって観光道路につながる形のものをつくってほしい。	遊歩道の整備につきまして、まずは地域としてどのように取り組むかを地域でまとめて頂きたいと思っております。まとめられたご意見を踏まえた上で、地元の市町村と連携して整備する施策の活用等も考えられます。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言	一宮会場 新太田橋から太田橋の間で部分的に護岸工事をやってもらったが、無味乾燥な工事だった。環境保全や景観とかを考えると、これからもあのような部分にはあのような工法をされるのか教えてほしい。	河川の整備におきましては、良好な自然環境の保全を図りつつ、失われるなどした環境の再生に努めて参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言	一宮会場 河川敷に何かをつくりたいとき、どのような手続きをすれば可能なのか、手続方法を教えてほしい。	河川敷に工作物を設置する場合は河川法の規定による許可が必要です。既に河川敷にある施設は、基本的に自治体等で設置・整備したものです。水辺利用を推進するためのご要望があるときは、関係自治体や国土交通省の河川担当事務所、出張所にご相談下さい。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言	一宮会場 導水路のルート付近に断層が通っているが、地震が起きた場合にどのような措置をとられるのか。	導水路のルートについては、活断層の位置を避けるようにして設定しております。また、施設の設計においては、耐震の基準を入れて検討して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言	一宮会場 ダムについて、地震が起きた場合にどのような措置をとられるのか。	ダム地点あるいはダム周辺において強い地震が発生した場合、臨時点検を実施し、必要に応じて維持補修を行います。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言	一宮会場 川の中にも治水施設として歴史と文化施設がある。最近、揖斐川で石積の水制を撤去したと聞いたが、撤去にあたって地元の方に何か説明とか、事前調査とか、何か実物を置いておくとか、そのようなことを考えていたのか。	水制に興味のある方に歴史調査をして頂き、過去の目的と現在における河川工作物としての役割をまとめました。その後、河川管理者として学識者も入れた懇談会を実施し、治水と環境、歴史について議論して支障となる部分の一部撤去を行いました。今後は、撤去後の河道と埋没している水制の状況についてモニタリングと工事方法の伝承としての広報について検討して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言	一宮会場 化石林公園についてどう考えているのか。化石林はやがては水の影響で壊れていくと思うが、対策や保護についてどう考えているのか。	化石林公園は美濃加茂市と連携して水辺の楽校として整備しており、河岸浸食防止対策としての護岸施工を行っております。今後は、美濃加茂市とともにモニタリングを行い流出のないよう維持管理して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	一宮会場 出来るだけ上流に連絡導水路の出水口をもっていただきたい。坂祝を今渡に近づけたい。(丸山ダムの放水量増も期待したい)	木曾川への放流地点は、地形、地質的な条件等から坂祝地区を予定しておりますが、具体的な放流地点については、今後更に検討を進めて参ります。

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	一宮会場 水辺のプラザのネットワーク作りはこれからの地域活動にとって大変ありがたいことだと思います。柔軟なお考えで嬉しく思います。(NGはNGとしてはっきり云って頂き、OKの所はどんどん進められるようお願い致します。	水辺プラザ事業は、市町村にある水辺の魅力を最大限に引き出す整備により、そこを訪れたいくなるような、地域交流の拠点となるような「にぎわいのある水辺」を創出する事業として位置づけられているものです。水辺プラザ＝市町村の交流拠点整備＋国土交通省の河川整備であるため市町村と連携して進めて参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	一宮会場 オオキンケイギクは河川だけの問題ではなく、一般の野原・田畑に対して広がっており、本当に共生できない植物なのか文化の問題として駆除しなければならないものなのか。	オオキンケイギクは、特定外来生物であり駆除を含めた適切な対応が必要です。NPOの方々等から意見を頂いたり、情報交換をして、外来種対策を進めていきたいと考えております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	一宮会場 木曾川26k～40k付近でのキソガワフユスリカ発生被害(直接の迷惑度に着目)は、近年その勢いを倍化させる傾向に在ります。若しこれが、往時に存在せず近年著しくその数を増やして来ていると言う観点から“外来種”と見るべきだとすれば、この現状を決して放置されるべきでないと思料します。対策の一つとして、“緩流域”の臨機流水増を図る(木曾川大堰のゲート開放等)と併行しての沿岸部の清掃(ヘドロ除去が主体)徹底が必須です。その際、往時における河床の状況を充分参考して頂きたいのです。	ユスリカ対策については、引き続き関係機関と連携を図っていきたいと考えております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	一宮会場 要点筆記に便利な設営は考えられないでしょうか。膝の上に開いた用紙への記入は、メガネの機能上余り旨くありません。	頂いたご意見を踏まえ、今後もよりよい「ふれあいセミナー」を開催できるよう工夫して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	一宮会場 制約が多いことは理解出来ますが、開会前或いは閉会后での資料説明担当者の配置が望ましいと思います。	頂いたご意見を踏まえ、今後もよりよい「ふれあいセミナー」を開催できるよう工夫して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	一宮会場 新丸山ダム建設に関連して、木曾川左岸66.4km付近には堤防がなくやや低い箇所(ホテルグランドヴィラ付近)がありますが、新丸山ダム建設後にはS58洪水に対応できますか。すぐ上流までは堤防の築堤や嵩上げがなされていますが、この部分が低いと洪水が廻り込んで、可児市土田下田地区が浸水する恐れがあるため、場合によってはホテル敷地の買収・築堤を早急に検討していただきたい。	平成19年度工事にて66.4km付近における国有地内での工事は完了しました。整備計画では、新丸山ダム建設及び木曾川における整備計画事業実施によりS58洪水に対応することが可能となっております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	一宮会場 可児市今渡・土田地区の化石林の保護を検討していただきたい。なにもしないと流れてしまう。	整備につきまして、まずは地域としてどのように取り組むかを地域でまとめて頂きたいと思っております。まとめられたご意見を踏まえた上で、地元の市町村と連携して整備する施策の活用等も考えられます。

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	一宮会場 木曾川本線に対しては、利水・環境の面から考える事はあたりまえの事ですが、枝線とか小さな川にまで同じ考えであるべきだと思います。国、県、市町村の管理のちがいはわかっていますが、外来種等の面から考えると、管理者を統一した方が良いと思います。	河川の管理は流域全体で考えていく必要があります、地域の方や関係機関と連携を図りながら適切に実施していきたいと考えております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	一宮会場 国交省だけではなく県関係者（岐阜県・愛知県）もまちえると良いと思います。	県関係者にも「ふれあいセミナー」の開催についてご案内して参加して頂いております。今後も、参加して頂けるようご案内して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	一宮会場 木曾川大堰が無い時は水流が多くスムーズに流れてたのが大堰が出来上がってから、ユスリカ多発生になってる。対策を取って下さい。	ユスリカ対策については、引き続き関係機関と連携を図っていきたくて考えております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	一宮会場 利水は、利用する時は必要量を利用しているが、洪水時も本流と同じ平行水量になっているか。	利水施設によっては、取水することにより地区内の浸水被害を誘発する恐れがある時や、気象状況から取水する必要がない時は取水が停止されます。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	一宮会場 洪水時は利水用門を閉じ本流にすべての負荷をかけているのではないのでしょうか。	利水施設によっては、取水することにより地区内の浸水被害を誘発する恐れがある時や、気象状況から取水する必要がない時は取水が停止されます。なお、洪水処理に関しては、流域内の洪水調節施設等によって河道への負担を低減させるとともに、河道の整備により計画規模の洪水を安全に流下させる計画となっております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	一宮会場 利水と治水の関係の整合性を調整する機関はありますか。	河川管理者と関係機関が調整することになります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	一宮会場 時間が少ないから、せめて2時間はほしい。	頂いたご意見を踏まえ、より多くの人からご意見を出して頂けるよう工夫し、よりよい「ふれあいセミナー」を開催して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	一宮会場 住んでいる町以外の活動や事例はなかなか知ることができないので、その発信をしてもらおうと事業の取り組みがよくわかると思います。私は羽島市の人間ですが、起地区の整備はどのような主旨でおこなわれているかわからなかった。が、今回知ることができました。身近な整備が誰でもわかるような説明・発信をおこなう機会や資料（看板とか新聞とか）を作っていってほしいと思います。	河川事業の役割効果、整備内容等についてできるだけ多くの方に分かって頂けるよう、様々な手法を使い、PRに努めて参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	一宮会場 濃尾大橋右岸側の樹木は背が高くなっているが、ばっかいの基準などはあるのでしょうか。このまま伸びほうだいでOKなのでしょうか。	洪水流下の支障となる樹木、河川管理施設に影響を与える樹木及び河川巡視等に支障となる樹木については、環境に配慮し伐開等を実施して参ります。事業実施にあたっては、緊急性に配慮しながら、費用と河川整備により得られる効果・影響を考慮して計画的に河川整備を進めて参ります。なお必要に応じ、学識者の知見を踏まえるとともに、地域の皆さまや関係機関と情報の共有を図りつつ実施して参ります。

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	一宮会場	河川にふれる場が増えるとよいと思います。生物多様性枠組み会議では里山が大きく取り上げられるようですが、河川についても人が入って自然と共に生活してきたと思います。何か合言葉をつけて、（里川？）またこれから人が入って活動できる場があるとよいと思います。安全面・規制面でむずかしい所はたくさんあると思いますが。	貴重な自然や水辺空間とのふれあい、歴史・文化を体験できる施策を関係機関や住民等と連携して推進することにより、人と川との関係の再構築に努めて参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	一宮会場	継続して実施してってください。とてもよい会だと思えます。行政の知らせる努力と住民の知る努力を確かめられる場だと思えます。	頂いたご意見を踏まえ、今後もよりよい「ふれあいセミナー」を開催できるよう工夫して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	一宮会場	配布資料A4資料は、めくりやすい両面印刷（横めくりではなく、縦めくり）としたほうが見やすいと思います。	頂いたご意見を踏まえ、今後もよりよい「ふれあいセミナー」を開催できるよう工夫して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	一宮会場	ユスリカ対策ですが、自治体で良くイベントとして行われている“コいの幼魚”の放流はまったく効果がありません。答弁にありましたサナギをすくう事が効果的と思いますが、根本対策は水を流す事です。平成13年の東海豪雨のときにはユスリカはあまり発生しませんでした。よほどんだ濁水が発生の原因だと思います。特に、サナギ時の放流が効果的と思いますが如何でしょうか。	ユスリカ対策については、引き続き関係機関と連携を図っていきたいと考えております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	一宮会場	魚類の迷入交雑が懸念されるという意見が連絡導水路の委員会ですでに出していますが、明治改修までは三川がすべてつながっているわけであり、今さら交雑の議論をすべきなのか。	木曾川水系連絡導水路事業に伴う環境への影響については、引き続き木曾川水系連絡導水路環境検討会において、学識者の指導助言を得ながら検討して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー 会場での発言	桑名会場	（アウトラインP.22 内水対策より）高須排水機場という立派な施設があるのに運転期間が短い。運転水位の見直しと大江川の改修をして欲しい。	ポンプの増設は整備計画に位置付けがあります。運転水位の見直しについては、今後検討していきたく思っております。大江川の改修は、岐阜県の事業となるため頂いたご意見を岐阜県に伝えさせていただきます。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー 会場での発言	桑名会場	長島は、ゼロメートル地帯・輪中地帯であるため1ヶ所でも堤防が切れれば浸水してしまう。堤防整備が地元が一番の要望であり、橋梁部も含めて1年でも早く完成させて欲しい。長島海岸はH20より、県海岸工事を10カ年で行う。県の事業だが、出来るだけ早く完成するように国も力添えをして欲しい。	平成20年より耐震補強を実施することは伺っております。本日の意見は三重県の担当者へ伝えさせて頂き、国の力添えについては技術面等でバックアップを考えて参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー 会場での発言	桑名会場	連絡導水路施設の防災面（地震）に対する検討は？	木曾川水系連絡導水路のルートについては、活断層の位置を避けるようにして設定しております。また、施設の設計においては、耐震の基準を入れて検討して参ります。

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言	桑名会場 少ない人数だがいろいろ活動している。(水質調査、千本松原を愛する会)このような機会を活かして川への関心を高めてもらう取り組みをして欲しい。	河川環境についても、皆さまと協働して川への関心を高め、保全していきたいと考えております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	会場での発言	桑名会場 この地域は、海、川、山という景観が揃ったすばらしい地域だと思う。学校教育等で身近なところから、身近な事を伝えていって欲しいと思っているし、応援している。	河川環境についても、皆さまと協働して保全していきたいと考えております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	桑名会場 木曾川・長良川の中堤の工事時は、現在の自然を出来る限り保全して欲しい。	下流施設の具体の位置等については、今後、検討を進めて参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	桑名会場 連絡導水路環境検討会(現在)に市町の首長を入れるべき。	木曾川水系連絡導水路環境検討会は、環境調査や環境への影響の予測と評価について審議するため、学識経験を有する委員で構成しております。なお、環境影響検討の結果については、「環境レポート(仮称)」(案)をまとめ、関係する自治体や地域の方々等から意見を聴くこととしております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	桑名会場 連絡導水路計画は、徳山ダム基本計画(当初)に計画されていたのか?	木曾川水系連絡導水路計画は、徳山ダムの事業実施計画には含まれておりません。木曾川水系連絡導水路は、平成10年に徳山ダムの目的として異常渇水時の緊急水の補給が加わったことを受け、平成18年度から実施計画調査に着手したものです。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	桑名会場 事業実施時にも是非住民とのコミュニケーションを持って下さい。整備計画で位置づけたからなんでも出来る、というスタンスの取り組みとならないことを願う。	今後も皆さまと行政が意見交換を行い情報共有するために、「ふれあいセミナー」や地元説明会等、いろいろな機会を設けていきたいと考えております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	桑名会場 長良川右岸堤、木曾三川公園付近長良川大橋の交通渋滞をもっと考えて欲しい。	道路管理者である岐阜県大垣土木事務所及び公園管理者である木曾三川公園管理センターにお伝えいたします。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	桑名会場 中国四川大地震において、ダム湖の決壊による被害の増大が懸念されています。長良川河口堰で満水になっている長良川の水が長島町に流れ込まないように堤防の耐震性を強化してもらいたい。	耐震対策については、堤防の耐震詳細点検を実施していく予定です。樋門等の構造物については、逐次改築時に耐震検討を行い施工しております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	桑名会場 河川パトロールの強化、ゴミ捨て対策や河川敷に不法に住む人の退去など。	河川への不法投棄等が絶えません。皆さまと協働して河川環境の保全をしていきたいと考えております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	桑名会場 セミナー大変参考になりました。私たち住民はこういったセミナーを色々な機会に受けさせていただき、施策をよく理解していきたいと思えます。	頂いたご意見を踏まえ、今後もよりよい「ふれあいセミナー」を開催できるよう工夫して参ります。

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	桑名会場	<p>木曾三川河口近くにはたくさんのヨシが繁っており、河川の清掃をすると、ヨシ原の中にゴミなどがいっぱいひっかかっており、手の付けようがありません。滋賀県の琵琶湖では、ヨシが水の浄化に役立つということで毎年刈り取って大切に守られております。</p> <p>木曾三川河口地域でも昔はヨシズ等を作るため、きれいに刈り取られていました。刈り取ることをしないとゴミがたまったり、二酸化炭素発生で水の浄化にはならないと思います。なんとか毎年ボランティア活動でも働きかけ、ヨシを刈ることが出来ないかと思っております。</p>	<p>河川環境についても、皆さまと協働して保全していきたいと考えております。ヨシ原についても皆さまと議論をしながら保全していきたいと考えております。ヨシ刈りについても今後議論を重ねてどの様なことが出来るか検討していきたいと考えております。</p>
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	桑名会場	<p>河川敷を活用し、一般市民の「川に関する関心」を高めるような方策（ex. 花畑（ひまわり、菜の花）など）の住民参加の活動により、幅広く啓発を行えたらいいですね。</p>	<p>住民(NPO)と協働できる活動を今後も継続できるよう考えております。</p>
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	桑名会場	<p>アウトラインP22の2に「輪中堤の機能維持…」と書いてあるが、現在は「輪中堤の機能維持」を考えるのではなく、「現在の水防組織のあり方」を考える必要があると思っております。</p>	<p>水防団については、高齢化、サラリーマン化、手当の拡充等の問題点が多くあります。市町村と協働して水防活動支援を考えていきたいと考えております。</p>
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	桑名会場	<p>発言をさせていただきましたが、長島地区高潮防波堤については1年も早く完成をさせていただきたい。</p>	<p>木曾三川の高潮区間においては、整備計画にて整備が記載されております。高潮区間の完成に向けて地元関係者と協力しながら進めて参りたいと考えております。</p>
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	桑名会場	<p>長島海岸高潮堤防補強及び耐震対策工事は県の工事ではありますが、今年度から10年の計画と聞いています。今年度2億円の予算で総額40億円と聞いています。10年間でも厳しいと思いますが、国交省からも援助をお願いしたいと思っております。早い時期の完成を希望しています。</p>	<p>三重県の関係部局にお伝えいたします。国といたしましても技術面等の援助となるかもしれませんが、出来ることを行って参りたいと考えております。</p>

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	桑名会場	木曾三川フォーラム木曾川部会所属、名古屋市 中川区在住石黒です。この地区同様河口部で生 まれ育ち、未だに川ガキが止らず今は山・川・ 里・海のつながりで、自然環境保全活動に取組 み中です。とりわけ、河口部の干拓地や干潟に 関わる生物多様性と、松並木を守ることに力を 入れてます。すでに皆さんご存じの事ですが、 大河三川が近接する地域中心に数km圏には多 度・養老の山並み、足元には三つの大河その流 れ行く先は豊かな漁場と生産を支える海があ り、風光明媚な国定公園です。1時間程でこら れる地域の住民は四百万人ともいわれ、四季を 通して多くの人々が訪れ、心を癒され、人の和 づくりや各種スポーツもいろいろ行われ、時に は食用とする魚介や植物を収穫されてゆきま す。また、この地は治水事業で全国に知られる 歴史遺産もたくさん残されています。これほど恵 まれた場所は他に見当たりません。	河川環境についても、皆さまと協働して保全していきたいと考えております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	桑名会場	しかし、今一度このシンボリック存在の松並木 を観ると、密植状態であったり、寿命が近づい ているのと、周囲環境悪化により、年々弱って いる並木を守るべく、実生から育てた苗木を世 代木として植樹し、手を掛けられているのが松 並木を愛する会の皆さんです。老骨にむち打っ て国定公園内であり、重い歴史が有るが故に並 木を守らねばと、一種使命感でもって活動され ています。こうした活動には、市民と行政共々 に立場上出来ることと出来ないことがあります 。お互いがそのことを十分理解し合って、知 恵と汗の出しどころと心得たいものです。	河川環境についても、皆さまと協働して保全していきたいと考えております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	桑名会場	この度30年の整備計画が策定されたが、私は 河川行政の一部には50年、100年のスパン で取り組むべきものもあると思います。	今回、策定した河川整備計画では、概ね30年間の河川整備計画の目標や整備実 施事項を定めております。また、昨年11月に長期的な視点に立った河川整備の 基本となるべき方針として河川整備基本方針を策定しました。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	桑名会場	そこで私の要望ですが、現状長良川左岸の治水 神社で止っている松並木を、立田で木曾川右岸 へ移り、日原の渡し跡に現存する並木に繋げたい。 現状苗木は十分有り、一部は過密に植って る場所があります。愛する会の人達が活動しや すい周辺環境を作っていただき、川と自然環境 を守る思想が末永く伝えられるよう願います。	河川環境についても、皆さまと協働して保全していきたいと考えております。

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	桑名会場 厳しい財政の中とは理解してますが、心底からの親水と自然環境保全が実感できる事業であってほしく、この事が万一にも切捨て、または忘却されることの無いよう、よろしく願いいたします。	河川環境についても、皆さまと協働して保全していきたいと考えております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	桑名会場 今回のようなセミナーを開催して欲しい。	頂いたご意見を踏まえ、今後もよりよい「ふれあいセミナー」を開催できるよう工夫して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	桑名会場 質疑のための時間が少ない。	頂いたご意見を踏まえ、より多くの人からご意見を出して頂けるよう工夫し、よりよい「ふれあいセミナー」を開催して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	桑名会場 フリートークのための時間を増やして欲しい。	頂いたご意見を踏まえ、より多くの人からご意見を出して頂けるよう工夫し、よりよい「ふれあいセミナー」を開催して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	桑名会場 会を始める時間をもう少し早くしていただき、2～2.5時間くらいはやっていただくと、充実した内容になると思います。	頂いたご意見を踏まえ、より多くの人からご意見を出して頂けるよう工夫し、よりよい「ふれあいセミナー」を開催して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	桑名会場 時間厳守をして下さい。	頂いたご意見を踏まえ、より多くの人からご意見を出して頂けるよう工夫し、よりよい「ふれあいセミナー」を開催して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	桑名会場 ある流域委員会では、流域委員会の意見をとるか行政の計画に準じるか、どちらの意見を重要にするかとの意見があるようですが、このセミナーの位置付けを明確にしていきたい。	ふれあいセミナーは、木曾三川の川づくりに関して地域の皆さまと行政が情報共有することを目的として実施しております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	桑名会場 「川づくりパートナー」のグループ間や、メンバー間でコミュニケーションが出来る場またはネットがあるといいと思います。	頂いたご意見につきましては、今後検討させていただきます。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	桑名会場 意見交換の時間が少ない。	頂いたご意見を踏まえ、より多くの人からご意見を出して頂けるよう工夫し、よりよい「ふれあいセミナー」を開催して参ります。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	桑名会場 司会の方は大学の先生みたいですが、どんな経緯で司会をされているのでしょうか。説明が欲しいです。	名古屋工業大学で保全生態学 繁殖生態学を専攻されています。木曾三川とのつながりは絶滅危惧種（タコノアシ）の埋土種子からの復元の研究（揖斐川の河道掘削で埋まっていたタコノアシが多く復元しました。）があります。伊勢湾再生の関係で御教授頂き、昨年のおふれあい懇談会にも司会進行役をして頂きました。社会的活動として愛知県水循環再生指標検討委員会委員（2006年～）中川運河環境再生技術検討委員会委員（2006年～）などをされております。
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	桑名会場 今回は事業説明会ですか？3分の2（1時間）を延々と説明を受けて、意見を言うのが3分の1（30分）。意見交換の時間が少ないということに対しては、満足していません。（質問が3人とは少ない）	頂いたご意見を踏まえ、より多くの人からご意見を出して頂けるよう工夫し、よりよい「ふれあいセミナー」を開催して参ります。

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第1回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	桑名会場 いろいろ話を聞いて「さあ、意見は」といわれ ても、話しにくい。もう少し工夫して下さい。	今回も「川づくり」と言う大項目ではなかなか意見が頂けないと考慮し、木曾 三川下流部で主に活動するNPO様に報告いただきました。次回のふれあいセミ ナーからは皆さまのご意見を踏まえ、川づくりのご意見が頂きやすいよう工夫 して参ります。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第1部)	会場での発言	岐阜会場 樹木伐開の箇所を選び方を教えてほしい。	洪水流下の支障となる樹木、河川管理施設に影響を与える樹木及び河川巡視等 に支障となる樹木については、環境に配慮し伐開等を実施して参ります。 事業実施にあたっては、緊急性に配慮しながら、費用と河川整備により得られ る効果・影響を考慮して計画的に河川整備を進めて参ります。 なお必要に応じ、学識者の知見を踏まえるとともに、地域の皆さまや関係機関 と情報の共有を図りつつ実施して参ります。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第1部)	会場での発言	岐阜会場 木曾川など他河川も伐開時期を教えてほしい。	洪水流下の支障となる樹木、河川管理施設に影響を与える樹木及び河川巡視等 に支障となる樹木については、環境に配慮し伐開等を実施して参ります。 事業実施にあたっては、緊急性に配慮しながら、費用と河川整備により得られ る効果・影響を考慮して計画的に河川整備を進めて参ります。 なお必要に応じ、学識者の知見を踏まえるとともに、地域の皆さまや関係機関 と情報の共有を図りつつ実施して参ります。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第1部)	会場での発言	岐阜会場 樹木伐開だけでなく、河道掘削も進めた方が良 いのではないかと。	河道整備流量を計画高水位以下で安全に流下させるために必要な河道断面積が 確保されていない場合には、水位低下対策として河道掘削や洪水流下の支障と なる河道内樹木の伐開を実施して参ります。 水位低下対策の実施にあたっては、動植物の生息・生育環境に配慮し、必要に 応じて代替措置等により環境への影響の低減に努めて参ります。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第1部)	会場での発言	岐阜会場 鳥などの環境にも配慮が必要だが、治水を優先 させるべきである。	治水・利水・環境のそれぞれの目標が調和しながら達成されるよう、本支川及 び上下流バランスを考慮するとともに、流域の保水・遊水機能の適切な保全を 奨励したり、風土や景観、親水、動植物の生息・生育環境に配慮するなど総合 的な視点で河川事業を進めていきたいと考えております。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第1部)	会場での発言	岐阜会場 庄内川では、環境面への配慮として専門家と相 談した。エノキとかムクノキは残した方が良 いのではないかと。	洪水流下の支障となる樹木、河川管理施設に影響を与える樹木及び河川巡視等 に支障となる樹木については、環境に配慮し伐開等を実施して参ります。 事業実施にあたっては、調査・計画・施工・維持管理を一連のシステムとして 捉え、モニタリング、評価を行い、必要に応じて計画、施工、維持管理に フィードバックいたします。 なお必要に応じ、学識者の知見を踏まえるとともに、地域の皆さまや関係機関 と情報の共有を図りつつ実施して参ります。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第1部)	会場での発言	岐阜会場 昔の地図で、川の流れを参考にして検討した方 が良いのではないかと。	河川整備にあたっては、長期的に河床の安定を図るため、洪水時の水位の縦断 変化、河床の土砂動態について、河道の変遷等を参考に継続的な調査観測を実 施し、その結果を反映した河川整備や適切な維持管理を実施して参ります。

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方	
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第1部)	会場での発言	岐阜会場	渡り鳥が来る場所については、木を部分的に残すなどの工夫をしてはどうか。	洪水流下の支障となる樹木、河川管理施設に影響を与える樹木及び河川巡視等に支障となる樹木については、環境に配慮し伐開等を実施して参ります。事業実施にあたっては、調査・計画・施工・維持管理を一連のシステムとして捉え、モニタリング、評価を行い、必要に応じて計画、施工、維持管理にフィードバックいたします。 なお必要に応じ、学識者の知見を踏まえるとともに、地域の皆さまや関係機関と情報の共有を図りつつ実施して参ります。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第1部)	会場での発言	岐阜会場	忠節は木が生えていないが、そんな川の姿にして欲しくない。	洪水流下の支障となる樹木、河川管理施設に影響を与える樹木及び河川巡視等に支障となる樹木については、環境に配慮し伐開等を実施して参ります。事業実施にあたっては、現在の状況を踏まえて良好な環境の保全・再生に努めて参りたいと考えております。 なお、本地区については平成16年出水時における河積阻害地点であり、漁協関係者や地域の皆さまと意見交換を行って過去の河原の状況を把握したうえで伐開を行いました。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第1部)	会場での発言	岐阜会場	H16出水では、忠節橋付近が流下能力の阻害となったようだ。治水を優先に考えるべきではないか。	治水・利水・環境のそれぞれの目標が調和しながら達成されるよう、本支川及び上下流バランスを考慮するとともに、流域の保水・遊水機能の適切な保全を奨励したり、風土や景観、親水、動植物の生息・生育環境に配慮するなど総合的な視点で河川事業を進めていきたいと考えております。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第1部)	会場での発言	岐阜会場	木が大きくなる前に処理するのも必要ではないか。	洪水流下の支障となる樹木、河川管理施設に影響を与える樹木及び河川巡視等に支障となる樹木については、環境に配慮し伐開等を実施して参ります。事業実施にあたっては、緊急性に配慮しながら、費用と河川整備により得られる効果・影響を考慮して計画的に河川整備を進めて参ります。 なお必要に応じ、学識者の知見を踏まえるとともに、地域の皆さまや関係機関と情報の共有を図りつつ実施して参ります。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第1部)	会場での発言	岐阜会場	鳥だけでなく魚への配慮も必要ではないか。	洪水流下の支障となる樹木、河川管理施設に影響を与える樹木及び河川巡視等に支障となる樹木については、環境に配慮し伐開等を実施して参ります。事業実施にあたっては、調査・計画・施工・維持管理を一連のシステムとして捉え、モニタリング、評価を行い、必要に応じて計画、施工、維持管理にフィードバックいたします。 なお必要に応じ、学識者の知見を踏まえるとともに、地域の皆さまや関係機関と情報の共有を図りつつ実施して参ります。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第1部)	会場での発言	岐阜会場	伐開箇所の選び方の基準を教えてください。	洪水流下の支障となる樹木、河川管理施設に影響を与える樹木及び河川巡視等に支障となる樹木については、環境に配慮し伐開等を実施して参ります。事業実施にあたっては、緊急性に配慮しながら、費用と河川整備により得られる効果・影響を考慮して計画的に河川整備を進めて参ります。 なお必要に応じ、学識者の知見を踏まえるとともに、地域の皆さまや関係機関と情報の共有を図りつつ実施して参ります。

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第1部)	会場での発言 岐阜会場	徳山ダムが水を放流したら揖斐川のアユの遡上が見られなかった。徳山ダムの水を長良川に流したときに、長良川の生態系はどうなるのか。揖斐川でもアユの遡上が認められなかったような水を流すことは生態系に非常に悪い結果を及ぼすと思う。長良鵜飼を世界遺産に登録しようかというときに、これはやめてもらいたい。	<p>近年、年降水量の減少や変動幅の増大が昔に比べて顕著にみられるようになり、H6には忠節地点で最小7m³/sまで減少しました。このように長良川の流量が少なくなったとき、少しでも流量を回復させるために、木曾川に導水する徳山ダムの湯水対策容量からの水を一部、長良川を經由して導水する計画としております。</p> <p>木曾川水系連絡導水路事業に係る環境調査・検討については、地域の皆様や学識経験者の方から頂いたご意見を参考に、環境影響評価法に基づく環境影響評価と同等の技術レベルで行って参ります。</p> <p>具体的な環境影響検討につきましては、現在ご心配いただいている項目を含め、学識経験者で構成される環境検討会で指導・助言を受けながら実施しているところであり、調査・検討結果については随時公表し、様々な機会を通じて皆さまへ説明して参りたいと考えております。</p> <p>なお、徳山ダムでは、ダムと貯水池の安全を点検するとともに、梅雨に備えた治水機能を発揮させるため、平成20年4月24日から5月5日までの間、試験放流を行いました。この試験放流の実施時期が海産（天然アユ）の遡上時期（通常は4月～5月の約2ヶ月間）の一部と重複し、試験放流によりアユの遡上が若干遅れていましたが、試験放流終了以降、通常時の補給へと移行した後は揖斐川本川へのアユの遡上も確認されております。</p> <p style="text-align: center;">（資料-1）H6長良川での湯水被害（新聞記事）</p>
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第1部)	会場での発言 岐阜会場	樹木伐開に関してどの程度木が残せるかということが基本的な話だと思う。11月から渡り鳥が渡ってくるから、伐開は7月中旬から10月中旬までにしてほしい。	<p>洪水流下の支障となる樹木、河川管理施設に影響を与える樹木及び河川巡視等に支障となる樹木については、環境に配慮し伐開等を実施して参ります。</p> <p>事業実施にあたっては、調査・計画・施工・維持管理を一連のシステムとして捉え、モニタリング、評価を行い、必要に応じて計画、施工、維持管理にフィードバックいたします。</p> <p>なお必要に応じ、学識者の知見を踏まえるとともに、地域の皆さまや関係機関と情報の共有を図りつつ実施して参ります。</p>
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第1部)	会場での発言 岐阜会場	早く工事を完了させることは復元を早くすることであり、何年もかかって事業をやることは生態系に大きく影響する。伐開、伐根、河道掘削をしたときにどのように復元できる状況をその場所に残していくのが課題である。河畔林というのは、生物にとって非常に大事なものであり大切な役目を果たしている。できるだけ復元できる様な状況をきちんと考えてやっていくことが大事である。	<p>洪水流下の支障となる樹木、河川管理施設に影響を与える樹木及び河川巡視等に支障となる樹木については、環境に配慮し伐開等を実施して参ります。</p> <p>事業実施にあたっては、調査・計画・施工・維持管理を一連のシステムとして捉え、モニタリング、評価を行い、必要に応じて計画、施工、維持管理にフィードバックいたします。</p> <p>なお必要に応じ、学識者の知見を踏まえるとともに、地域の皆さまや関係機関と情報の共有を図りつつ実施して参ります。</p>

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第1部)	会場での発言 岐阜会場	堰をつくったから河畔林が増えるのか、堰をつく らなかつたら河畔林の種も全部海へ流 れてしまうのかということ、堰と河畔林の因果 関係を学術的に調べてほしい。	上流から海岸までの総合的な土砂管理の観点から、河床材料の経年的変化だけ でなく土砂移動の定量的な把握に努めると共に、土砂移動に関する調査・研究 に関係機関と連携して取り組み、安定した河道の維持に努めるとともに、洪水 等により河道内に堆積した土砂について、洪水の安全な流下等の支障となる場 合には、環境への影響を配慮し、河道掘削等の適切な措置を実施して参りま す。 樹木伐開の実施にあたっては、調査・計画・施工・維持管理を一連のシステム として捉え、モニタリング、評価を行い、必要に応じて計画、施工、維持管理 にフィードバックいたします。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第1部)	会場での発言 岐阜会場	川の流れ次第では泥はあまり貯まらないもの である。一部河道掘削をした場合に、うまく水 を誘導してやれば泥が貯まって30年後に大木が できてしまうことは少ないのではないか。	上流から海岸までの総合的な土砂管理の観点から、河床材料の経年的変化だけ でなく土砂移動の定量的な把握に努めると共に、土砂移動に関する調査・研究 に関係機関と連携して取り組み、安定した河道の維持に努めるとともに、洪水 等により河道内に堆積した土砂について、洪水の安全な流下等の支障となる場 合には、環境への影響を配慮し、河道掘削等の適切な措置を実施して参りま す。 樹木伐開の実施にあたっては、調査・計画・施工・維持管理を一連のシステム として捉え、モニタリング、評価を行い、必要に応じて計画、施工、維持管理 にフィードバックいたします。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第1部)	会場での発言 岐阜会場	伐採することは当然だと思いが、なぜそこに木 が生えたかを十分に検討してほしい。「だし」 の後ろ側には必ず土砂が貯まって樹木が生えて いる。洪水のときによく川を見て、どこに水を 外に出す堰をつくるかが一番肝心であり、川を 見られるときには大洪水が来たときに川の流れ がどうなっているかを十分に把握してほしい。	上流から海岸までの総合的な土砂管理の観点から、河床材料の経年的変化だけ でなく土砂移動の定量的な把握に努めると共に、土砂移動に関する調査・研究 に関係機関と連携して取り組み、安定した河道の維持に努めるとともに、洪水 等により河道内に堆積した土砂について、洪水の安全な流下等の支障となる場 合には、環境への影響を配慮し、河道掘削等の適切な措置を実施して参りま す。 樹木伐開の実施にあたっては、調査・計画・施工・維持管理を一連のシステム として捉え、モニタリング、評価を行い、必要に応じて計画、施工、維持管理 にフィードバックいたします。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	長良川の渇水時に水を流すのに、木曾川の上流 のダムや下流の成戸地点の流量を測って、国土 交通省の河川管理者が決定すると聞いている が、これについての見解を頂きたい。	環境改善のための最大16m ³ /sについては、木曾川の阿木川ダム、味噌川ダム、新 丸山ダムの新規利水容量及び不特定容量に係る貯水量が50%を下回るとともに 木曾成戸地点の流量が40m ³ /sを下回った場合に導水する計画としております。 なお、実際の運用にあたっては、長良川の渇水状況等に配慮して対応すること になります。 (資料-2) 河川維持流量に対するダムの分担と木曾川水系連絡導水路の役割

木曽三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第2回 木曽三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	新しい施設を作って渇水に対応するのではなく、 あるものを有効に利用してやっていく方向に 国は動いているわけで、この時期に890億円の 予算を使って渇水のために導水路を使うという のはいかがなものか。渇水の際は別の方法で 対応することで、このお金は必要ないと考え る。	木曽川水系では、近年の小雨傾向により、ダム計画当時と比べダムの供給能力 が低下しており、平成になって19回の取水制限がなされており、安定的な水 供給が求められております。 特に平成6年には木曽川の本川が干上がり、ダムが枯渇し水道が断水したり、 工業、農業に大きな被害が発生しました。 このような状況も踏まえ、木曽川水系では、徳山ダムなど水資源開発施設の建 設を進めております。 徳山ダムは浜名湖の2倍の貯水量を有する文字通り我が国最大のダムであり、 岐阜県、愛知県、名古屋市の都市用水や、渇水に強い木曽川水系とするための 異常渇水対策のための容量を有しております。 木曽川水系連絡導水路は、完成した徳山ダムで確保した水を有効に利用して、 木曽川水系の渇水に対応するために、緊急水や都市用水を導水するものであ り、必要不可欠な施設です。

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	導水路事業の是非を問う議論が市民とされたことがあるのか。基本的にはふれあい懇談会とかセミナーがやられているが、決めてから市民におろしているやり方についてはおかしい。突然長良川に流すと言い出したのは去年の8月で、一昨年8月にはそんな話はなかった。なぜ突然1年のうちに変わったのか。	<p>「第6回 徳山ダムに係る導水路検討会 (H18.8.30)」において、上流ルート案と下流ルート案の効果及び経済性を比較したところ、上流ルート案が優位と認められたことから、引き続き上流ルート案にて実施計画調査を進め、コスト縮減の観点を含めた事業計画(案)の作成に向けた具体的な検討を早期に進めていくことを確認しました。</p> <p>一方、揖斐川については徳山ダムの不特定容量及び濁水対策容量により万石地点で20m³/s確保が可能となり、木曾川についても阿木川ダム、味噌川ダム、新丸山ダムの不特定容量及び徳山ダムの濁水対策容量により成戸地点で40m³/s確保が可能となりますが、長良川についてはダムの適地がほとんど無く、不特定容量が確保出来ないことから、中流部における計画的な河川維持流量の確保が出来ません。</p> <p>これより、揖斐川西平ダム付近から木曾川坂祝地区に導水する「上流ルート案」を基本とした上で、コスト縮減の観点を含めて、木曾川水系連絡導水路事業の目的は変えずに長良川中流部の河川環境も改善させる方法を検討しました。</p> <p>この結果、木曾川水系連絡導水路による木曾川への導水の一部を長良川を経由させることにより、長良川の中流部における河川維持流量を増やすことが可能となり、河川環境を改善することができるようになるとともに、長良川から木曾川までの間の導水路(上流施設)の施設断面を小さくすることが可能となり、「上流ルート案」に比べて事業費を縮減することができることから、「第7回 徳山ダムに係る導水路検討会 (H19.8.22)」において、「上流分割案」を採用したのですが、この時点で計画が決められたものではありません。その後、この上流分割ルートを案として様々な意見を聞き、河川整備計画に定めたものです。</p> <p>河川整備計画策定後も、ふれあいセミナーや地元説明会等により、地域の皆さまに説明させて頂いているところですが、今後も引き続き、適切な説明を継続していきたいと考えております。</p> <p>(資料-3) 第6回徳山ダムに係る導水路検討会 議事要旨 (資料-4) 第7回徳山ダムに係る導水路検討会 議事要旨 (資料-5) 第7回徳山ダムに係る導水路検討会資料抜粋(上流案、下流案の比較) (資料-6) 第7回徳山ダムに係る導水路検討会資料抜粋(上流分割案の検討)</p>
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	国土交通省が市民に対して情報隠しと情報の小出しをやって市民を攪乱しているというか、惑わしている。	<p>木曾川水系連絡導水路は、現在も施設設計等のための調査や環境影響検討、環境調査を行っており、この結果や皆さまから頂いたご意見に対して、更に調査・検討を進め、出来る限り早い段階での公表や説明に努めております。今後は、頂いたご意見も踏まえ、より適切な情報の出し方などについても検討して参ります。</p> <p>なお、これまで公表した木曾川水系連絡導水路に関する資料、情報については、ホームページに掲載しております。ご不明な事項がございましたら遠慮なくお問い合わせ下さい。</p> <p>(木曾川水系連絡導水路HPアドレス) http://www.cbr.mlit.go.jp/kisojyo/watering_way/index.html</p>

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	木曾三川計画を今からもう1回考え直して専門の学者、まじめな学者を入れて公開討論の場をこういう場所のほかにじっくりやって頂きたい。	木曾三川計画（木曾川水系河川整備計画）については、流域委員会を12回、ふれあい懇談会を4回（公聴会を含め44会場）、整備計画策定説明会を4回開催し、学識経験者、関係住民、関係自治体から多くのご意見を頂き策定しております。 木曾川水系連絡導水路事業についても、流域委員会の中で、集中的に審議をして頂きました。 また、環境への影響についても、検討項目を始め、調査内容や方法、影響の予測・評価などについて、学識経験者による「木曾川水系連絡導水路環境検討会」において公開で審議をして頂き、たくさんの指導・助言を頂いているところであり、現在、環境レポート（検討項目・手法編）を供覧し、地域の皆さまからのご意見をお聴きしているところです。 改めて学識経験者を入れた公開の議論の場を設ける必要はないと考えております。 （資料-7）木曾川水系流域委員会 委員名簿 （資料-8）木曾川水系連絡導水路環境検討会 委員名簿
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	下流施設は長良川河口堰の取水に使いたいと名古屋市と愛知県が強く要望しているから徳山ダムの水を流す用水路・長良川河口堰の貯水池として長良川を使わせて頂くというのは、長良川に対する敬意を欠いた考え方である。愛知県と名古屋市の強い要望があるから長良川をそのようにしてしまうことは、河川管理者としてそれでいいのだろうか。ぜひ考え直して頂きたい。	木曾川水系連絡導水路の計画において長良川にも導水するのは、ダムの適地がほとんど無く、不特定容量が確保出来ないことから、渇水時に計画的な河川維持流量の確保が出来ない長良川に対して、少しでも流況を改善したいからです。 導水路による環境への影響については、流域委員会等でもご意見を頂いたところであり、引き続き学識経験者による環境検討会において、指導・助言を受けながら影響検討を実施し、結果を公表して参ります。 また、長良川へ放流する都市用水0.7m ³ /sについては、通常時も長良川を經由して導水する計画としておりますが、河川整備計画でも「運用時において導水先の河川環境との関係に配慮して行うこととする。」としており、通常時は長良川から木曾川の間導水路（上流施設）の導水断面に余裕があることから、直接木曾川まで導水したり、長良川の支川を通じて導水することも考えられます。 なお、木曾川水系連絡導水路事業の計画には、長良川河口堰の水を取水する計画は含まれておりません。長良川河口堰から取水する場合は堰直上流から行うこととなり、愛知県および名古屋市から導水路の下流施設を利用して河口堰の取水をしたいとの要望が出ていますが、長良川河口堰の水の取水方法については慎重な検討が必要であると考えております。 （資料-9） H6長良川での渇水被害（新聞記事） （資料-10）木曾川水系河川整備計画抜粋

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	長良川の環境を改善するために水を流すと言う が、長良川の環境をどう把握しているのか。な ぜ長良川には貝がないのか。	<p>長良川の環境については、通常より水位・流量及び、水質(SS(浮遊物質 量)、濁度、水温、BOD等)を定期的に観測するとともに、動植物について は、河川水辺の国勢調査(魚類、底生動物(貝類含む)等)を実施するなど把握に 努めております。</p> <p>連絡導水路の環境影響検討にあたっては、これらの既往の調査に加え、検討 区域周辺から下流域に掛けて、H18年より動植物調査(魚類・底生動物(貝類含 む)を実施しております。</p> <p>環境レポート(検討項目・手法編)には、これらの調査結果の概要を速報と して記載しております。</p> <p>連絡導水路運用後の長良川の水質予測については、完全混合の場合、水温、 BOD、SSについては、導水路運用前と比べて変化は少ない結果となりま す。また、局所的な混合も考慮した水質予測についても、今後進めて参りま す。</p> <p>水質予測の他にも、現在も長良川を特徴付けるアユ調査を始め魚類の交雑に 関する調査も実施するなど環境影響検討に必要なデータの把握に努めており、 これらの調査結果を踏まえながら、予測・評価を進めて参ります。</p> <p>また、ヤマトシジミについては、長良川の堰上流域において平成11年にはほ とんど漁獲されなくなっております。これは事前に予測されたように、堰上流 域が淡水となり繁殖できなくなったためと考えられます。</p> <p>しかし、堰下流域では、堰運用後も継続的に漁獲されており、ヤマトシジミ はしゅんせつ区域外で繁殖していると考えられます。このことは、堰運用後5 年間実施したモニタリング調査のヤマトシジミの生息調査結果によっても確認 されております。</p> <p>(資料-11) 環境レポート(検討項目・手法編)抜粋 (資料-12) 第4、5回環境検討会説明資料(アユ・交雑に関する調査) (資料-13) 第5回環境検討会 予測結果の速報(水質)</p>

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	長良川河口堰によって河口の生態系を破壊して、そのうえに川を破壊するような行為をするのですか。ぜひ取りやめて下さい。	<p>長良川河口堰は、堰の建設によって、塩水の遡上を防止することにより、大規模な浚渫を可能にし、長良川の洪水を安全に流下させるものです。また、上流域を淡水化することにより新たな水資源開発がなされました。堰上流域の淡水化は環境面に大きな変化を与えましたが、H16年度中部地方ダム等管理フォローアップ委員会（堰部会）において、長良川河口堰の評価については、「環境面において堰運用後の環境変化は概ね安定していることから、総じて問題ないことを確認」との提言を頂いております。</p> <p>木曾川水系連絡導水路事業は、木曾川水系の異常渇水時において徳山ダムの渇水対策容量に確保された水を長良川と木曾川に導水することにより、河川環境を改善するとともに、徳山ダムで確保した水を愛知県及び名古屋市の都市用水として導水するもので必要不可欠な施設です。</p> <p>木曾川水系連絡導水路事業に係る環境調査・検討については、地域の皆さまや学識経験者の方から頂いたご意見を参考に、環境影響評価法に基づく環境影響評価と同等の技術レベルで行って参ります。</p> <p>具体的な環境影響検討につきましては、現在心配頂いている項目を含め、学識経験者で構成される環境検討会で指導・助言を受けながら実施しているところであり、調査・検討結果については随時公表し、様々な機会を通じて皆さまへ説明していきたいと考えております。</p> <p style="text-align: center;">（資料-14）「INFORMATION 長良川河口堰」（抜粋）</p>
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	木曾川について言えば、環境改善の目的で流される水は木曾川上流から補給できる26m ³ /sで十分であり、徳山ダムの水を木曾川にも長良川にも流す必要はない。もう一度科学的に検討して頂きたい。	<p>木曾川における流水の正常な機能の維持のために必要な流量は、木曾成戸地点で50m³/sとしており、そのうち40m³/sについては、木曾川上流にある阿木川ダム、味噌川ダム、そして現在建設中の新丸山ダムに確保する不特定容量から補給することにより確保し、河川環境の改善を図ることとしております。</p> <p>ただし、計画規模を越える異常渇水時には木曾川ダム群だけでは対応することが出来ないため、導水路により徳山ダムに確保された渇水対策容量の内、一部の水を木曾川及び長良川に導水し、河川環境の改善を図る計画としておりますので、ご理解頂きたくお願いいたします。</p> <p>長良川については、ダムの適地がほとんど無く、不特定容量が確保できないことから中流部における計画的な河川維持流量の確保が出来ません。</p> <p>平成6年の異常渇水時には長良川忠節地点の最小流量は約7m³/sで、アユ等の産卵に必要なと考えられている流量に足りませんが、導水路により4m³/sをくわえて、11m³/sを確保した場合、いくつかある産卵場のうち1箇所は、おおむねこれを満足することができると考えております。</p> <p style="text-align: center;">（資料-15）河川維持流量 （資料-16）木曾川の現況流況と導水路・木曾川ダム群完成後の比較 （資料-1）H6長良川での渇水被害（新聞記事）</p>

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	上流域のことだけでなく下流域のことも考えてほしい。木曾三川の先には伊勢湾があり、きれいな水にするように浄化をしながら流して頂きたい。ヤマトシジミは26m ³ /sで結構で50m ³ /sも流す必要はないと言われたが、木曾川大堰を作るときに約束している。その辺のところも導水路事業に絡めて議論を深めてもらいたい。	木曾川では昭和40年代に、この地域の総意として木曾成戸50m ³ /sの制限流量を設定して、それ以下の流量には手を付けないこととして水資源開発が行われ、河川環境を維持してきました。 このような歴史的な経緯と合わせて、流水の正常な機能を維持するために必要な流量を検討し、木曾成戸概ね50m ³ /sと設定しております。 これにつきましては、基本方針、整備計画の策定において、議論して頂きました。 (資料-1) H6長良川での渇水被害(新聞記事) (資料-17) H6木曾川での渇水被害(新聞記事) (資料-18) 第5回流域委員会資料抜粋(木曾川正常流量(案))
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	長良川へ直接揖斐川の水は要らないというのが基本的な考えで、導水路事業には賛成である。1年間を通じて、少なくとも生物が生息、繁殖、そこで生きることができる、農業用水にして頂き、すべての生物がそこで生息し、なおかつ繁殖できる環境を導水路事業でやって頂きたい。	木曾川水系連絡導水路事業には、木曾川水系の異常渇水時において徳山ダムの渇水対策容量に確保された水を長良川と木曾川に導水することにより、河川環境を改善する目的があります。それにより、生物の生息環境としてはよりよいものとなると考えております。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	ダムが一番上と底とでは、どれぐらい温度が違うのか。トンネルで何十kmも持ってきて長良川へ流すときには、どれだけの温度になっているか、そういう面をはっきり示された方がいいのではないか。	徳山ダムは、最低水位EL363.5m～常時満水位EL400mまでの間で運用されます。この範囲をおおむねカバーするEL353.4m～EL392mまでの任意の水深で取水することができる選択取水設備を持っております。 表層と低層の水温差は季節によって大きく異なり、貯水池や気象条件等の様々な要因によって変化するので一概には言えませんが、至近実績値のH20.8.4を事例とすると、貯水池EL.389.4mで表層付近最高水温は27.9℃、最低水位付近水温は6.7℃(水深26m)となり、水温差は21.2℃ありますが、上記選択取水設備によって、出来る限り流入水温に近い水を放流することとしております。 導水路を経由後の温度差について、現段階の試算では、導水路を経由した水と長良川の水との温度差は異常渇水年の河川の水温が高い時で、最大で5.6℃と予測されますが、完全混合を前提とした場合、導水前後の長良川の水温の最大差は0.9℃になると予測されます。 なお、今後、放水地点付近の地形、流速、流向等の調査結果をもとに流水混合(局所的な混合)の水質予測と評価を実施して参ります。 (資料-19) 貯水池の水温変化 (資料-20) 第5回環境検討会資料抜粋(長良川水温:平成6年) (資料-21) 徳山ダム選択取水設備

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	馬飼頭首工で流す50m ³ /sの根拠を説明してほしい。正常流量とは何か説明してほしい。	馬飼頭首工（木曾成戸地点）においては、歴史的な経緯と合わせて、流水の正常な機能を維持するために必要な流量を検討し、概ね50m ³ /sと設定しております。 河川流量と河川環境との関係については、完全に解明されている訳ではありませんが、流量の減少により河川環境が悪化しており、行政として河川流量を確保することは全国共通の施策として、一定の考え方の基に目標流量を定めておりまして、これが正常流量にあたります。 正常流量とは、動植物の生息地又は生育値の状況、景観、流水の清潔の保持、舟運、漁業等、多くの項目別の必要流量を勘案し、渇水時にも確保すべき最低限の流量として必要な流量を定めることとしております。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	馬飼頭首工で40m ³ /sを確保するという計画ですが、40m ³ /sの根拠を説明してほしい。	河川流量と河川環境との関係については、完全に解明されている訳ではありませんが、流量の減少により河川環境が悪化しており、行政として河川流量を確保することは全国共通の施策として、一定の考え方の基に目標流量を定めております。 木曾成戸地点においては、歴史的な経緯と合わせて、流水の正常な機能を維持するために必要な流量を検討し、50m ³ /sと設定しております。 なお、現計画では、渇水時に阿木川ダム、味噌川ダム、新丸山ダムで50m ³ /sのうち40m ³ /sまで確保しますが、異常渇水時には徳山ダムで40m ³ /sを確保することとしております。なお、残りの10m ³ /sは既得水利等の水利用の合理化等で対応していくこととしております。 (資料-17) H6木曾川での渇水被害（新聞記事）

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	常に発生する渇水について実際にはどう改良されるのか、導水路をつくることによってどう改良されるのかを示してほしい。	<p>過去100年間の降雨状況を見ると、年降水量は減少傾向で、この間最少値も8回程度更新している状況であり、近年で最大のH6年規模の渇水も、今後充分起こりうると考えられます。</p> <p>計画規模の渇水（近年の20年で2番目の渇水）までは、木曾川上流のダム群により木曾成戸地点で40m³/sが確保されますが、さらに大きな異常渇水が生じた場合、計画上、木曾川上流のダム群は枯渇してしまい、これを確保することができなくなります。</p> <p>木曾川水系連絡導水路を整備すれば、このような異常渇水時のために貯められている徳山ダムの渇水対策容量の水を木曾川や長良川に導水することができるようになり、木曾川では木曾成戸地点で40m³/sを確保し、長良川では忠節地点でH6年渇水時に7m³/sまで減少した流量を11m³/sまで回復することができるようになります。</p> <p>なお揖斐川においては、徳山ダムの不特定容量や渇水対策容量に確保した水により、渇水時においても万石地点で20m³/sの流量を確保します。</p> <p>また利水面での効果としては、例えば木曾川用水に係る水道用水では、10年に1度程度の渇水においては、断水を生じる恐れがある35%以上の取水制限が51日間から31日間へ軽減され、近年最大のH6年規模の渇水においては、ダムの枯渇日数が36日間から28日間へ、35%以上の取水制限日数及びダムの枯渇日数の合計が、81日間から45日間へ軽減されると試算されます。</p> <p style="color: blue;">(資料-2) 河川維持流量に対するダムの分担と木曾川水系連絡導水路の役割 (資料-22) 第9回木曾川水系流域委員会資料抜粋</p>
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	各務原には2本の活断層があり、それを横切るように導水路が建設される計画となっていて非常に不安であり、その辺のことを説明して頂きたい。	<p>ご意見の活断層が各務原市の「よみがえる地下水」（以下「同書」という。）に記載されている断層のことであるとすれば、確認された2本の断層については、同書の中でも「活断層」とは断定していないようです。また、この断層は「〔新編〕日本の活断層—分布図と資料〔1991年（財）東京大学出版会発行〕」や「活断層詳細デジタルマップ〔2002年（財）東京大学出版会発行〕」にも記載されておりません。</p> <p>同書で確認された2本の断層の範囲は連絡導水路から離れているため、同書の情報では連絡導水路検討区域との関係は不明です。しかし、連絡導水路に係る地質調査において、二本の断層のうち東側に位置するものの延長線上と想定される断層が検討区域において確認されております。これについては、今後詳細な検討を行い適切に対応して参ります。なお、連絡導水路検討区域の考え方では、断層を避けていることを説明していますが、これは単なる断層ではなく、「活断層」のことを指しております。</p> <p style="color: blue;">(資料-23) 「よみがえる地下水」に記載されている断層</p>

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	国土交通省は上流分割案の目的を渇水対策と環境保全と言っているが、環境によいわけではない。環境によいのであれば国土交通省が立証をしなければならない。	渇水になり河川の流量が著しく減少すると、水質悪化や生息・生育する動植物に影響を及ぼすことが考えられます。 平水流量の平均値が約66m ³ /sである長良川忠節地点において、最小流量が約7m ³ /sまで減少してしまったH6のような異常渇水時において、木曾川水系連絡導水路を上流分割案として導水路から長良川に導水することにより、長良川の流量を少しでも増やすことができ、河川環境が改善されると考えております。 (資料-9) H6長良川での渇水被害 (新聞記事)
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	使い道のない徳山ダムの水を導水管事業の公共事業にできること、現在利用できていない河口堰の水を使用する道筋をつくること、河口堰のゲートを永遠に上げない仕組みをつくるというのが導路上流分割案の狙いであり、導水路事業を白紙撤回してほしい。	木曾川水系連絡導水路の上流分割案は、コスト縮減に加え、ダムの適地がほとんど無く、不特定容量が確保出来ないことから、中流部における計画的な河川維持流量の確保が出来ない長良川に導水することにより中流部の河川環境を改善させることが目的です。 河口堰の水利用も必要ですが、堰直上流で取水することとしており、取水地点については、別途検討が必要です。 (資料-9) H6長良川での渇水被害 (新聞記事)
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	環境影響予測モデルにおいて、濁りやプランクトンについて成功した例が少ないが、予測値と実測値がどのくらい違いがあったのかどうか明らかにしてほしい。	一般に使用されている貯水池モデル、河川モデルで予測計算しております。モデルについては実測値と合うように定数を同定しており、実測値との再現比較からも、概ね妥当なモデルと考えております。 (資料-24) 第5回環境検討会資料抜粋 (モデルの検証)
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	木曾三川をどういう川にしたいか、そのためにはどういう水質を維持することが必要なのか聞かせて頂きたい。	木曾三川本川の水質は良好な状態を保っており、今後ともこの水質を維持していくことが重要と考えております。 なお、今後の更なる水質の改善に向け、特に支川における流入負荷量の軽減や河川の浄化について関係者と協力して対応していきます。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	現在の技術で将来予測がきちんとできない場合にどうするのか、予測が外れた場合どういう対応策が考えられているのか、聞かせて頂きたい。	国土交通省では、事業採択後の事業等について評価を行い、事業の継続に当たり、必要に応じその見直しを行う等の再評価や、事業完了後の事業の効果、環境への影響等の確認を行い、必要に応じて、適切な改善措置を検討する事後評価を行っているところです。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	木曾三川の下流部がひどい状態になった原因は何なのか、説明して頂きたい。現在の技術ではそれを改善するような可能性があるのかないのか、技術的・経済的に可能であるのかどうかを説明して頂きたい。	木曾三川本川は、昭和30年代後半以降の著しい産業の発展や人口の集中増加による都市化、流域の開発などに伴い、河川への流出負荷量が増加し、水質が悪化しましたが、その後の排水規制の強化や下水道整備などの様々な対策により改善されました。 なお本川上流部に比べ下流部の水質は支川の影響を強く受けています。揖斐川、長良川の支川では一部BODについては環境基準を満たさない値となっておりますが、市民の自助努力等と合わせて、河川浄化施設の整備や下水道整備により水質浄化に努めております。本川下流部のさらなる水質改善を進めるためには、これらの支川の水質対策が必要となります。

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	現在の導水路計画は、目的を達成するためには対費用効果や環境に配慮した場合様々な代替案が考えられるので、現在の計画を見直しされることを要望する。	<p>渇水の頻発する木曾川の渇水対策としては、既に完成している徳山ダムで確保した水を利用するための木曾川水系連絡導水路計画が最も適切であると考えております。</p> <p>なお、環境への影響については、現在、学識経験者で構成される環境検討会で指導・助言を受けながら実施しているところであり、調査・検討結果については、随時公表し、様々な機会を通じて説明していきたいと考えております。</p>
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	環境用水については、木曾川の12m ³ /sの水量を確保するためには犬山頭首工から取水している既存の農業用水、濃尾用水の水利調整をすることにより可能である。濃尾用水の水利権は許可水利権なので国土交通省の権限で見直しをすることが十分可能である。	<p>渇水調整が必要な段階においては、都市用水も不足しており、農業用水の水利調整だけでは必要な河川維持流量を満足することは困難です。</p> <p>平成6年に木曾川上流のダム群が枯渇し、河川流量がゼロを記録した場合を例にとると、仮に既得農業用水の取水を半分にして補給したとしても都市用水の厳しい取水制限の改善が十分にできず、河川の維持流量の部分的な回復もできません。</p> <p>また、水利権の更新にあたっては、取水の実態、用水の多面的機能、地理的・構造的条件等に配慮しながら、給水人口、受益面積、営農形態等の変化を踏まえて水需要を精査確認するもので、水利用の合理化を踏まえて適正な見直しを行っております。</p> <p style="text-align: center;">(資料-25) 第9回木曾川水系流域委員会資料抜粋 (導水路がなければ)</p>
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	長良川の環境用水については、4m ³ /sの確保を計画しているが、曾代用水とか各務用水等の既存の農業用水を再度見直すことによって確保することが可能である。	長良川の正常流量は、導水路と、農業用水の見直し等による水利用の合理化とを併せて、忠節地点において概ね26m ³ /sを確保する計画としております。したがって、導水路も水利用の合理化も、どちらも必要であると考えております。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	利水については、4m ³ /sの導水路を上流域で木曾川だけにダイレクトに確保すれば、下流の施設はつくらなくても木曾川から十分取水可能である。	<p>長良川の河川環境の改善及び経済性から上流分割ルートとしました。利水については、名古屋市の工水の取水位置が木曾川大堰地点のため、下流ルートを用いることとしました。なお、河川整備計画に記載した様に「木曾川水系連絡導水路による新規利水の導水については、運用時において導水先の河川環境との関係に配慮して行うこととする (P3-46 第2項 1 (1) 適正な流水管理や水利用)」としております。</p> <p>通常時には長良川～木曾川間の導水路断面に余裕があることから、長良川の状況に応じ、直接木曾川に導水することも可能であるため、そのことについても検討していきます。</p>
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	マニュアルに従って正常流量を検討したと聞いているが、マニュアルを曲解されているのではないか。	<p>「正常流量検討の手引き(案)」では「動植物等の項目別必要流量に関しては、渇水時に確保すべき流量を設定するための一般的な手法」が示されており、木曾川水系の正常流量について、本マニュアルを元に必要流量を算定しております。</p> <p style="text-align: center;">(資料-26) 正常流量設定手順</p>

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	在来の魚だけでなく、外来種の魚も対象に検討して頂きたい。	<p>連絡導水路の環境影響検討では、外来種を含む魚類の迷入等による拡散についても、調査の予測・評価対象としております。このため、外来種の出現状況について、河川水辺の国勢調査、木曾川水系連絡導水路動植物調査、水資源機構による調査で確認し、その結果を環境レポート（検討項目・手法編）にも記載しております。</p> <p>なお、調査結果では、連絡導水路による取水を予定している揖斐川上流ではブラックバスなどの特定外来種は確認されていませんが、適切な予測・評価を進めて参ります。</p> <p>(資料-27) 環境レポート（検討項目・手法編）抜粋 (資料-28) 木曾三川の特定外来種マップ</p>
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	特定外来種の拡散について、河川の水辺の国勢調査などの結果をもとに検討して、西平ダムより上流のところで特定外来種は出てきませんでしたと資料に書かれていた。河川の水辺の国勢調査は西平ダムより上流で魚類は調査されていないから特定外来種がリストに出てこず問題ないという議論はどうかと思う。	<p>連絡導水路の環境影響検討のために行った特定外来種の調査は、西平ダム上流における、河川水辺の国勢調査（横山ダム）、水資源機構による調査を含めて整理したものです。</p> <p>(資料-29) 環境レポート（検討項目・手法編）抜粋</p>
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	水系間での魚類の交雑について検討しているが、何をもって対象魚種を決められたのか確認したい。カワヨシノボリが検討されないのはなぜか。また、交雑で問題が生じたときにどのように対策をとろうと考えているのか。	<p>平成20年より調査を実施しております。魚類の交雑に関する調査の対象種の選定は、「木曾三川間の交雑状況の把握」及び「同一河川上下流間の交雑状況の把握」の観点から選定しております。このため、木曾三川に生息する全ての種を対象にはしていませんが、ご指摘のカワヨシノボリについても参考的に採取しており解析を行う予定です。</p> <p>(資料-29) 環境レポート（検討項目・手法編）抜粋 (資料-12) 第4回環境検討会説明資料</p>
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	徳山ダムで洪水の安全性が高まり、渇水の際も水を補給して頂けることに対しては感謝している。導水路については、揖斐川から木曾川の方に常時に近く流れるようになるのではないかと揖斐川の地元の方は懸念しているので、完成後の具体的な運用について完成までに明確にして頂きたい。	<p>揖斐川に対しては、徳山ダムの不特定容量や渇水対策容量に確保した水により、渇水時においても下流岡島地点で10m³/s、万石地点で20m³/sの流量を確保します。</p> <p>木曾川水系連絡導水路事業は、このように揖斐川に必要な流量を確保した上で、木曾川水系の異常渇水時において徳山ダムの渇水対策容量に確保された水を、河川環境の改善のため長良川と木曾川に導水するとともに、徳山ダムで開発した最大4m³/sの都市用水を常時木曾川へ導水することとしております。</p> <p>(資料-2) 河川維持流量に対するダムの分担と木曾川水系連絡導水路の役割 (資料-30) 揖斐川の現況流況と徳山ダム完成後の比較</p>

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	汚濁源対策がどのように導水路事業とかかわりを持っているのか教えてほしい。	木曾川水系連絡導水路事業においては、汚濁源対策は計画に含まれておりません。 なお、長良川下流部の水質浄化のためには、中下流で合流する支川等の水質浄化が必要であり、その汚濁源対策について、引き続き流域の関係地方公共団体、流域住民、企業等と連携して、流域内の汚濁負荷の削減に努めていきたいと考えております。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	長良川は最終的に河口堰で魚道で4m ³ /sしか流量がないことこそが問題であり、異常洪水時に20m ³ /s流すかどうか、890億円よりは先にやるのがたくさんある。	長良川は河口堰の直下で揖斐川と合流しており、河口堰からの必要放流量は魚道に必要な流量としております。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	導水路事業が、長良川の環境改善になるのか確認したい。	洪水になり河川の流量が著しく減少すると、水質悪化や生息・生育する動植物に影響を及ぼすことが考えられます。 平水流量の平均値が約66m ³ /sである長良川忠節地点において、最小流量が約7m ³ /sまで減少してしまったH6のような異常洪水時において木曾川水系連絡導水路から長良川に導水することにより、長良川の流量を少しでも増やすことができ、河川環境が改善されると考えております。 (資料-9) H6長良川での洪水被害 (新聞記事)
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	導水路事業は各務原市の地下水にも影響があり、地下水の影響をきちんと報告してほしい。	地下水への影響については、各務原市に限らず、地元説明会と地域の皆さまからご心配を頂いているところです。トンネル構造物である連絡導水路(上流施設)においては、地下水への影響の予測・検討は必須であり、環境影響検討の項目としております。 影響の予測は、解析モデルなどを用いながら影響の検討を始めていますが、学識経験者により構成される「木曾川水系連絡導水路環境検討会」からの指導・助言も踏まえ、解析モデルの精度向上のため、これまでの地質調査結果に加えて、更に追加調査を実施し、解析を進めるとともに、引き続き、地下水位や沢水利用等については地域のご理解、ご協力を頂きながら調査して参りたいと考えております。順次、地域の皆さまにご説明していく予定です。 地下水関連の調査状況の速報については、環境レポート(検討項目・手法編)にも記載しております。 (資料-31) 環境レポート(検討項目・手法編)
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	木曾川の水位が、笠松の40km地点で昔と比べて2m近く低い。住民の声としては、大至急木曾川に水を流してほしい。南派川に全く水が流れていないのが木曾川の実態です。	木曾川に対しては、河床の低下により水位も下がっていますが、木曾川上流の阿木川ダム、味噌川ダム、新丸山ダム及び徳山ダム(木曾川水系連絡導水路)により、木曾成戸地点で40m ³ /sを確保する計画としております。 南派川については、河川整備計画の「河川環境の現状と課題」において、「分派地点への砂礫の堆積により通常時は水涸れとなる」等、記載しており、その対策について、今後検討して参ります。 (資料-2) 河川維持流量に対するダムの分担と木曾川水系連絡導水路の役割

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	今回のセミナーでの意見も十分に入れながら、導水路事業について中止も含めて考えて頂きたい。	木曾川水系では、近年の渇水が頻発しており、渇水時における河川環境の改善や安定的な水供給が求められています。 木曾川水系連絡導水路事業は、木曾川水系の異常渇水時における河川環境の改善とともに、利水安全度の向上を目的としており、必要な事業と考えております。 なお、ご心配して頂いている環境への影響については、現在、学識経験者で構成される環境検討会で指導・助言を受けながら実施しているところであり、調査・検討結果については、随時公表し、様々な機会を通じて説明していきたいと考えております。 (資料-32) 渇水が頻発する木曾川
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	岐阜市議会議員にアンケートを出して6割以上の議員から回答があった。7割以上が導水路事業についてよく分からない、もっと説明してもらわないと困るという意見であり、国土交通省は議員にも説明していない。	木曾川水系連絡導水路については、今年度からふれあいセミナーや地元説明会等により、地域の皆さまに説明するとともに、関係自治体や議員の方々、あるいは漁協関係者等に説明させて頂いているところですが、「説明が不十分である」というご指摘も踏まえた上で、今後も引き続き、適切な説明を継続していきたいと考えております。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	今日は意見交換ということではなかったのか。意見交換は何もしてない。次回続けてやることを確約してほしい。	多くの意見を頂いたことから、時間の制約もあり事業者側からの回答ができず、ご期待されていた意見交換とならなかったことについては申し訳ありませんでした。 ふれあいセミナーは、実施の時期、方法等を検討の上、今後も継続して開催したいと考えていますのでご理解願います。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	実際に施工を進めようとする国土交通省なり、水資源機構の意見が何も返ってない。	多くの意見を頂いたことから、時間の制約もあり事業者側からの回答ができず、ご期待されていた意見交換とならなかったことについては申し訳ありませんでした。 ふれあいセミナーは、実施の時期、方法等を検討の上、今後も継続して開催したいと考えていますのでご理解願います。 なお、頂いたご意見に対する事業者の考え方については、ここに掲載させていただきます。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	意見交換ということの意味はどうで、これからどうするのかを河川管理者の方から聞きたい。	多くの意見を頂いたことから、時間の制約もあり事業者側からの回答ができず、ご期待されていた意見交換とならなかったことについては申し訳ありませんでした。 ふれあいセミナーは、実施の時期、方法等を検討の上、今後も継続して開催したいと考えていますのでご理解願います。 なお、頂いたご意見に対する事業者の考え方については、ここに掲載させていただきます。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	導水路事業にかかわった先生方に出て頂いて、今日のように対話・意見交換をしないとイケない。	ご意見として承ります。

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー (第2部)	会場での発言 岐阜会場	会議の様子を聞きながら、オブザーバーは後でアンケート用紙に意見を書いて置いてくるという形で、そういうスタイルもあってよいのではないか。	頂いたご意見を踏まえ、今後もよりよい「ふれあいセミナー」を開催できるよう工夫して参ります。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙 岐阜会場	徳山ダムを当初建設する時と現在では大きく何か変化したことから導水路を作る必要が生じたようです。本当の原因を明らかにしてほしいと思って、今日のセミナーを聞かせていただいた次第です。本日のセミナーでの質問の回答は出席者に配布して下さい。	平成6年の渇水時には、木曾川の本川が干上がり、一部地域で断水が生じるなど社会的問題となったことにかんがみ、H9年度に徳山ダムの事業実施計画が変更され、渇水に強い木曾川水系とするために、利水計画の一部見直しに合わせ徳山ダムに渇水対策容量を確保する計画となりました。これに伴い徳山ダムに確保された水を木曾川や長良川に導水する木曾川水系連絡導水路が国の事業として開始されたものです。なお、頂いたご意見に対する事業者の考え方については、ここに掲載させていただきます。 (資料-33) 木曾川水系連絡導水路事業の経緯
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙 岐阜会場	ふれあいとは、行政側と住民側とのふれあいだと思います。	ふれあいセミナーは、木曾三川の川づくりに関して地域の皆さまと行政が情報共有することを目的として実施しております。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙 岐阜会場	長良川34kmより下流にシジミなど貝は全く生息していない。 1. その現状は把握しているのか。 2. 何故揖斐川にシジミは沢山いるのに、長良川では居ないのか？ HPでも可、必ず答えていただきたい。	木曾三川下流部におけるヤマトシジミの漁獲量を河川別にみると、揖斐川及び木曾川では年変動はあるものの継続的に漁獲されております。長良川では、堰上流域において平成11年にはほとんど漁獲されなくなっております。これは事前に予測されたように、堰上流域が淡水となりヤマトシジミが繁殖できなくなったためです。しかし、堰下流域では、堰運用後も継続的に漁獲されており、ヤマトシジミはしゅんせつ区域外で繁殖していると考えられます。このことは、堰運用後5年間実施したモニタリング調査のヤマトシジミの生息調査結果によっても確認されております。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙 岐阜会場	伊自良川流域に住んでいます。治水面での要望が多い地区ですが、渇水の被害はどの川もあるのであれば、板屋川、伊治良川、鳥羽川にも水を平へ流すことも検討してもらいたい。	木曾川水系連絡導水路は長良川と木曾川に導水する計画ですが、河川整備計画に「異常渇水時において根尾川等の支川で河川環境が著しく悪化した場合等、状況に応じて補給し、河川環境の改善に努める」と記載しているところであり、今後の課題として検討していきたい。 (資料-34) 木曾川水系河川整備計画抜粋
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙 岐阜会場	反対派對当局の対立の場となり、今後ますますその傾向が強まると思われる。	頂いたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙 岐阜会場	木曾川導水路とは、簡単に言うと、下水道の管のようなものではないのか？しかも何10kmも続く。管の中に汚物がたまることはないのですか？そんな物流される長良川、木曾川たまったものではない！！	木曾川水系連絡導水路は揖斐川の水を導水する施設であり、下水管のように汚水を流すものではないため、管の中に汚物がたまることは考えられません。なお、導水管を流下することによる水質の変化等については、引き続き学識経験者による環境検討会において指導・助言を受けながら影響検討を実施しているところであり、結果については公表して参ります。 (資料-35) 木曾川水系連絡導水路事業における環境影響検討の方針

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙 岐阜会場	質問が出たら、随時答えるとした方がいいのではないかと？	頂いたご意見を踏まえ、より多くの人からご意見を出して頂けるよう工夫し、よりよい「ふれあいセミナー」を開催して参ります。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙 岐阜会場	<ul style="list-style-type: none"> ・治水か環境の問題はあると思いますが、治水を第一 ・治水は、水の流れ、自然もあり、治水対策は台風の洪水時に予防対策が必要であります。 ・治水・利水・環境の各問題が討議されましたが、治水問題は100年に1回かわかりませんが、現在は環境問題、災害はいつくるかわかりません。 ・導水路の問題より治水問題を願います。 	治水・利水・環境のそれぞれの目標が調和しながら達成されるよう、本支川及び上下流バランスを考慮するとともに、流域の保水・遊水機能の適切な保全を奨励したり、風土や景観、親水、動植物の生息・生育環境に配慮するなど総合的な視点で河川事業を進めて参ります。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙 岐阜会場	河川の河原の運用方法を企画ください。	河道の状況や地域ごとの河川内利用について把握するとともに、事業実施にあたっては地域の皆さまや自然保護団体の方のご意見を伺いながら整備を行って参ります。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙 岐阜会場	国の最近の方針でも「量的な充足を優先する事業」から「限られた水資源を有効に利用する総合的なマネジメント」へ変わってきています。導水路の利水については、名古屋市の工業用水道は実際には水道の水でまかなわれており、新たな導水路は不要です。愛知県の水道用水供給事業でも需要は横バイで、人口減少や節水を考えて徳山ダムの水道分も不要です。「渇水」時でも、農水の調整を含めた代替策をとることができます。このような事情と財政的なきびしさを考えると、890億円の導水路は必要ないと考えます。（富樫、配布資料を参照して下さい）	平成19年版日本の水資源においては、「これまでの水資源開発による量的な充足の優先から、限られた水資源を有効に利用する「総合的なマネジメント」へと転換することが求められている」との表現が見られますが、これは、本文中に「平常時及び緊急時においてハード面、ソフト面の施策を組み合わせた需要側、供給側の両方で総合的な水資源マネジメントを推進する必要がある。」とあり、必要とされる施設が整備された次の段階において求められる施策です。 完成した徳山ダムを有効に利用して、木曾川水系の渇水に対応するためにも、木曾川水系連絡導水路の整備が必要であると考えております。 なお、名古屋市工水は水源として、浄水場の作業排水等を水源としており、安定して水質の良い水を供給するため、徳山ダムの水が必要とされております。また、愛知県の水道用水については、平成16年に変更された水資源開発基本計画で、少雨化に伴うダムの供給能力の低下もあり、徳山ダムが必要とされております。 さらに、農業用水についても、渇水時には節水が行われており、十分な代替案とはならないと考えております。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙 岐阜会場	自身の居住する河川流域も含めて、治水事業は一代で計れることなく長期スパンで計画実施されるものであるということ認識した。小手先ではダメ！	頂いたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙 岐阜会場	セミナーに参加する層の違いは、持っている意見の違いにもなる。セミナーによって融合し、その声が川づくり事業に反映されるなら、すばらしい。	ふれあいセミナーは、木曾三川の川づくりに関して地域の皆さまと行政が情報共有することを目的として実施しております。

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙 岐阜会場	私見としては、人命を尊重する治水は最優先されるべきであり、鳥がいる、魚がいるからといって事業が停止あるいは中止されるべきではないと思う。親水公園的なものを本川に求めるのはドリーマーである。環境(生態系)か、人命か。	治水・利水・環境のそれぞれの目標が調和しながら達成されるよう、本支川及び上下流バランスを考慮するとともに、流域の保水・遊水機能の適切な保全を奨励したり、風土や景観、親水、動植物の生息・生育環境に配慮するなど総合的な視点で河川事業を進めていきたいと考えております。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙 岐阜会場	午後第2部より参入した団体は徳山ダム建設に反対していた方の団体ですか？あらかじめ質問がプリント・配付されるのは何故？圧力団体ですか？	第2部には導水路事業に非常に興味を持ってみえる方が多く参加して頂きました。資料の配布につきましては、参加希望者から事前に問い合わせがあり、特に制限することもないことから必要な方が各自で資料を準備され配布されていたものです。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙 岐阜会場	現地視察と意見交換の2本立て構成は、視点も広がり大変よいと思う。国交省の事業の一端にふれる機会は少ないので、一般市民にとっては貴重な機会となる。今後より幅広く意見交換ができるとうい。	頂いたご意見を踏まえ、今後もよりよい「ふれあいセミナー」を開催できるよう工夫して参ります。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙 岐阜会場	木曾川の水を使っている地域の住民として、導水路事業は心強い。(渇水対策として)	導水路事業により利水安全度の向上と異常渇水時の河川環境の改善を図って参ります。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙 岐阜会場	何をどう考えても、長良川への導水には無理があります。白紙にもどすのがスジだと思います。長良川を愛する話し合い参加は何回でもお受けします。地域住民として。	木曾川水系連絡導水路の計画において長良川にも導水するのは、ダムの適地がほとんど無く、不特定容量が確保出来ないことから、渇水時に計画的な河川維持流量の確保が出来ない長良川に対して、少しでも流況を改善したいからです。 渇水になり河川の流量が著しく減少すると、水質悪化や生息・生育する動植物に影響を及ぼすことが考えられます。 平水流量の平均値が約66m ³ /sである長良川忠節地点において、最小流量が約7m ³ /sまで減少してしまったH6のような異常渇水時において木曾川水系連絡導水路から長良川に導水することにより、長良川の流量を少しでも増やすことができ、河川環境が改善されると考えております。 (資料-9) H6長良川での渇水被害(新聞記事)
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙 岐阜会場	話し合いになっていません。3回でも4回でもやりましょう。その間、事業を無理矢理進めないようにして下さい。	多くの意見を頂いたことから、時間の制約もあり事業者側からの回答ができず、ご期待されていた意見交換とならなかったことについては申し訳ありませんでした。 ふれあいセミナーは、実施の時期、方法等を検討の上、今後も継続して開催したいと考えておりますのでご理解願います。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙 岐阜会場	河川内の樹林は、その繁茂している経緯をよく整理して、洪水の流れのじゃまになるものは切るべきだと思います。ただし、またすぐには来て来ないように切り方を考えなければならないと思います。人々の安心と環境の天びんはむつかしいですが、少しずつでも試しながら切るべきでは。	洪水流下の支障となる樹木、河川管理施設に影響を与える樹木及び河川巡視等に支障となる樹木については、環境に配慮し伐開等を実施して参ります。事業実施にあたっては、調査・計画・施工・維持管理を一連のシステムとして捉え、モニタリング、評価を行い、必要に応じて計画、施工、維持管理にフィードバックいたします。 なお必要に応じ、学識者の知見を踏まえるとともに、地域の皆さまや関係機関と情報の共有を図りつつ実施して参ります。

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	岐阜会場 導水路は作り、うまく使うことを考えるようにしてほしい。人が生活や産業で、影響を与えていることに対し、緩和する対策として有効だと思います。	木曾川水系連絡導水路事業により利水安全度の向上と異常渇水時の河川環境の改善を図って参ります。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	岐阜会場 別紙のとおり (I. 1) 上流分割案で長良川に放流する計画となった経緯並びに国土交通省中部地整河川部の見解を明らかにされたい。	<p>木曾川水系連絡導水路ルートは比較検討の結果、上流ルートを基本としつつ、コスト縮減の観点から具体的な検討を進めました。</p> <p>維持流量の確保については、揖斐川と木曾川はダムによる流量確保ができますが、長良川にはダム適地がありません。</p> <p>導水路の目的を変えずに、木曾川への導水の一部を長良川を経由させることにより、長良川中流部の維持流量の確保とコスト縮減が可能となります。</p> <p>長良川を経由させる水量は、異常渇水時の緊急水としては、木曾川中流部及び長良川中流部でのアユ等の産卵・生息に必要な流量を各々確保するために長良川分として4m³/s、都市用水としては、取水地点が下流部である名古屋市工水分として0.7m³/sとしました。</p> <p>計4.7m³/sを長良川経由とすることにより、10億円のコスト縮減が可能となりました。</p> <p>なお、検討の経緯については、第6回徳山ダムに係る導水路検討会(H18.8.30)の後、事務局(中部地方整備局河川部)において、上流案を基本とし、コスト縮減の観点を含めた事業計画(案)の作成に向けた具体的な検討を進めていたのですが、前述の理由により「上流分割案」を案出し、第7回検討会において関係者に諮ったところです。</p> <p>(資料-3) 第6回徳山ダムに係る導水路検討会 議事要旨 (資料-4) 第7回徳山ダムに係る導水路検討会 議事要旨 (資料-5) 第7回徳山ダムに係る導水路検討会資料(上流案、下流案の比較) (資料-6) 第7回徳山ダムに係る導水路検討会資料(上流分割案の検討)</p>
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙	岐阜会場 別紙のとおり (I. 2) 上流分割案で長良川に放流することは、長良川の環境改善になるのか。	<p>渇水になり河川の流量が著しく減少すると、水質悪化や生息・生育する動植物に影響を及ぼすことが考えられます。</p> <p>平水流量の平均値が約66m³/sである長良川忠節地点において、最小流量が約7m³/sまで減少してしまったH6のような異常渇水時において木曾川水系連絡導水路から長良川に導水することにより、長良川の流量を少しでも増やすことができ、河川環境が改善されると考えております。</p> <p>(資料-9) H6長良川での渇水被害(新聞記事)</p>

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	岐阜会場	別紙のとおり (I. 3) 上流分割案で長良川に放流することは、長良川の生態系にマイナス効果しかないのではないか。	木曾川水系連絡導水路の計画において長良川にも導水するのは、ダムに適地がほとんど無く、不特定容量が確保出来ないことから、渇水時に計画的な河川維持流量の確保が出来ない長良川に対して、少しでも流況を改善したいからです。渇水になり河川の流量が著しく減少すると、水質悪化や生息・生育する動植物に影響を及ぼすことが考えられます。 平水流量の平均値が約66m ³ /sである長良川忠節地点において、最小流量が約7m ³ /sまで減少してしまったH6のような異常渇水時において木曾川水系連絡導水路から長良川に導水することにより、長良川の流量を少しでも増やすことができ、河川環境が改善されると考えております。 木曾川水系連絡導水路事業は、河川環境の改善を目的とした事業であります。この事業に関する環境調査及び環境影響検討については、ご心配いただいている生態系を含め、学識経験者で構成される環境検討会で指導・助言を受けながら実施しているところであり、検討結果等については公表して参ります。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	岐阜会場	別紙のとおり (II. 1) 木曾川水系連絡導水路の必要性がわからない。異常渇水時の生活を守るためなのか。	木曾川水系では、近年の小雨傾向により、ダム計画当時と比べダムの供給能力が低下しており、平成になって19回の取水制限がなされており、安定的な水供給が求められております。 このような状況も踏まえ、木曾川水系では、徳山ダムなど水資源開発施設の建設を進めております。 徳山ダムは浜名湖の2倍の貯水量を有する文字通り我が国最大のダムであり、岐阜県、愛知県、名古屋市の都市用水や、渇水に強い木曾川水系とするための異常渇水対策のための容量を有しております。 木曾川水系連絡導水路事業は、この徳山ダムで確保した水を利用するため必要不可欠な施設です。 このため、愛知県、名古屋市はじめ、岐阜県、三重県からも導水路の新規事業採択に関する要望を受けているところです。 (資料-32) 渇水が頻発する木曾川

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	岐阜会場	別紙のとおり (Ⅱ. 2) 木曾川水系連絡導水路の必要性がわからない。木曾成戸で40m ³ /sを確保する理由は何か。ヤマトシジミを守るためなのか。	木曾川水系では、近年の小雨傾向により、ダム計画当時と比べダムの供給能力が低下しており、平成になって19回の取水制限がなされており、安定的な水供給が求められております。 このような状況も踏まえ、木曾川水系では、徳山ダムなど水資源開発施設の建設を進めております。 徳山ダムは浜名湖の2倍の貯水量を有する文字通り我が国最大のダムであり、岐阜県、愛知県、名古屋市の都市用水や、濁水に強い木曾川水系とするための異常濁水対策のための容量を有しております。 木曾川水系連絡導水路事業は、この徳山ダムで確保した水を利用するため必要不可欠な施設です。 このため、愛知県、名古屋市はじめ、岐阜県、三重県からも導水路の新規事業採択に関する要望を受けているところです。 木曾川水系では、近年の少雨傾向に伴い、平成になって19回の取水制限が実施されるなど濁水が頻発しており、濁水時における河川環境の改善や安定的な水供給が求められています。 河川流量と河川環境との関係については、完全に解明されている訳ではありませんが、流量の減少により河川環境が悪化しており、行政として河川流量を確保することは全国共通の施策として、一定の考え方の基に目標流量を定めております。 木曾成戸地点においては、歴史的な経緯と合わせて、流水の正常な機能を維持するために必要な流量を検討(「ヤマトシジミの塩分耐性について」を参考に検証)し、50m ³ /sと設定しております。 なお、現計画では、濁水時に阿木川ダム、味噌川ダム、新丸山ダムで50m ³ /sのうち40m ³ /sまで確保しますが、異常濁水時には徳山ダムで40m ³ /sを確保することとしております。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	岐阜会場	別紙のとおり (Ⅲ) 環境影響評価準備書に準じた評価とりまとめとは何か。環境影響評価に必要な期間がとれないのではないか。	木曾川水系連絡導水路事業に関する環境調査及び環境影響検討は、環境影響評価法に基づく環境影響評価と同等の技術レベルの環境影響検討を行います。具体的には、法アセスを行う場合の指針である「ダム事業に係る環境影響評価の項目並びに当該項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針、環境の保全のための措置に関する指針等を定める省令」等を参考に実施することを考えております。 現在、検討項目及び手法についてまとめた「環境レポート(検討項目・手法編)」を供覧し、地域の皆さまからのご意見をお聴きしているところであり、この後、検討項目・手法を選定し、影響評価の実施を進めます。その後、環境影響検討の結果について「環境レポート(案)」としてとりまとめ、同様に意見を聴き、提出された意見についての事業者の見解とあわせて「環境レポート」としてとりまとめることとしております。 なお、導水路に係る環境調査・影響検討についてはH18年度以降、学識経験者による環境検討会において指導・助言を受けながら実施してきたところであり、今後も引き続き本検討会の指導・助言を受けながら実施していくことから適切な評価が可能であると考えております。 (資料-35) 木曾川水系連絡導水路事業における環境影響検討の方針

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	岐阜会場	別紙のとおり (Ⅳ) 木曾川連絡導水路のような不要不急の事業に、貴重な治水予算を注ぎ込む理由がわからない。	木曾川水系では、近年の小雨傾向により、ダム計画当時と比べダムの供給能力が低下しており、平成になって19回の取水制限がなされており、安定的な水供給が求められております。 このような状況も踏まえ、木曾川水系では、徳山ダムなど水資源開発施設の建設を進めております。 徳山ダムは浜名湖の2倍の貯水量を有する文字通り我が国最大のダムであり、岐阜県、愛知県、名古屋市の都市用水や、渇水に強い木曾川水系とするための異常渇水対策のための容量を有しております。 木曾川水系連絡導水路事業は、この徳山ダムで確保した水を利用するため必要不可欠な施設です。 このため、愛知県、名古屋市はじめ、岐阜県、三重県からも導水路の新規事業採択に関する要望を受けているところです。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	岐阜会場	「交換」になっていない。専門家意見を交換する場の設置。	多くの意見を頂いたことから、時間の制約もあり事業者側からの回答ができず、ご期待されていた意見交換とならなかったことについては申し訳ありませんでした。 なお、木曾川水系連絡導水路事業を進めるにあたっては、学識経験を有する委員で構成する木曾川水系連絡導水路環境検討会を設置して、環境調査や環境への影響等についての審議及びご助言を頂きながら検討を進めているところであり、改めて「専門家意見を交換する場」を設ける必要はないと考えております。 (資料-35) 木曾川水系連絡導水路における環境検討の方針
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	岐阜会場	当日も質問しましたが、木曾三川についての整備計画に基づく最初の長良川樹木伐開ですが、三川の中短期伐開計画をまず示すべきと思います。伐開は大中小河川各々の必要性があるはずで、優先順位をつけた伐開3～5年計画を示してほしい。	洪水流下の支障となる樹木、河川管理施設に影響を与える樹木及び河川巡視等に支障となる樹木については、環境に配慮し伐開等を実施して参ります。 事業実施にあたっては、緊急性に配慮しながら、費用と河川整備により得られる効果・影響を考慮して計画的に河川整備を進めて参ります。 なお必要に応じ、学識者の知見を踏まえるとともに、地域の皆さまや関係機関と情報の共有を図りつつ実施して参ります。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	岐阜会場	当日も様々な意見要望がでましたが、(植生・魚類)早急に「木曾三川伐開基本方針マニュアル」を作るべきで、今のままでは毎回同じ質問・要望のくり返しです。的をしぼった効果的な会議にしていくべきと思います。	洪水流下の支障となる樹木、河川管理施設に影響を与える樹木及び河川巡視等に支障となる樹木については、環境に配慮し伐開等を実施して参ります。 事業実施にあたっては、調査・計画・施工・維持管理を一連のシステムとして捉え、モニタリング、評価を行い、必要に応じて計画、施工、維持管理にフィードバックいたします。 なお必要に応じ、学識者の知見を踏まえるとともに、地域の皆さまや関係機関と情報の共有を図りつつ実施して参ります。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー ご意見用紙	岐阜会場	9:30～16:30は長時間であると思います。内容により計画すべきで、連絡導水路問題を伐開と同時では、良い意見は困難と思います。新設は決定されたとしても、今後多くの課題意見があります。	今回のふれあいセミナーは、皆さまの関心が高いテーマを2つ選んで開催させて頂き、樹木伐開と木曾川水系連絡導水路は、それぞれ集中して意見交換ができるように第1部・第2部に分けて時間を区切って実施させて頂きました。 今後も、頂いたご意見を踏まえ、よりよい「ふれあいセミナー」になるよう工夫して参ります。

木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見及びご意見に対する考え方の一覧

ご意見を頂いた方法	開催場所	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙 岐阜会場	緩湾曲外岸の上における土砂堆積について質問 がありましたが回答が難しそうであったので以 下にコメントします。簡単にいえば、外岸上に 洪水流がのるかからないかで上部堆積があるか ないかが決まります。のらなければ侵食のみと なります。洪水流は流水中に大量の土砂を含ん でいますので高水敷には低水路に近いところほ ど大量に浮遊砂が堆積しますがこれは低水路湾 曲部でも同じです。(資料P5の河道横断図を 見てもよく判ります=HWL10.24からみると 比較的下流の断面だと思いますが)湾曲外岸の 方が水位が上昇しますので溢れた水とともに、 土砂が堆積していきます。(高水敷には流速が 低く掃流力・乱れとも低下して沈降してしまう のです)	ご助言ありがとうございました。 河道の変遷や堆積・浸食の状況を把握したうえで河道計画や河床変動について 十分検討したうえで河川整備を進めて参ります。
第2回 木曾三川ふれ あいセミナー	ご意見用紙 岐阜会場	伐開時期については河川水辺の国調のデータ分 析が基本になるので十分検討・整理してほし い。	洪水流下の支障となる樹木、河川管理施設に影響を与える樹木及び河川巡視等 に支障となる樹木については、環境に配慮し伐開等を実施して参ります。 事業実施にあたっては、調査・計画・施工・維持管理を一連のシステムとして 捉え、モニタリング、評価を行い、必要に応じて計画、施工、維持管理に フィードバックいたします。 なお必要に応じ、学識者の知見を踏まえるとともに、地域の皆さまや関係機関 と情報の共有を図りつつ実施して参ります。